

令和5年度 茨木市生涯学習推進計画 事業進捗報告書



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

目 次

第 1	生涯学習推進計画のめざす姿	
1	生涯学習推進計画のめざす姿	1
2	生涯学習推進計画の計画の体系	2
第 2	生涯学習推進計画事業進捗	
1	総括表	3
2	生涯学習推進計画事業進捗の見方	4
3	茨木市機構図	5
4	令和 4 年度生涯学習推進計画事業評価	
(1)	基本目標 1 まなびづくり	7
(2)	基本目標 2 ひとづくり	35
(3)	基本目標 3 まちづくり	39

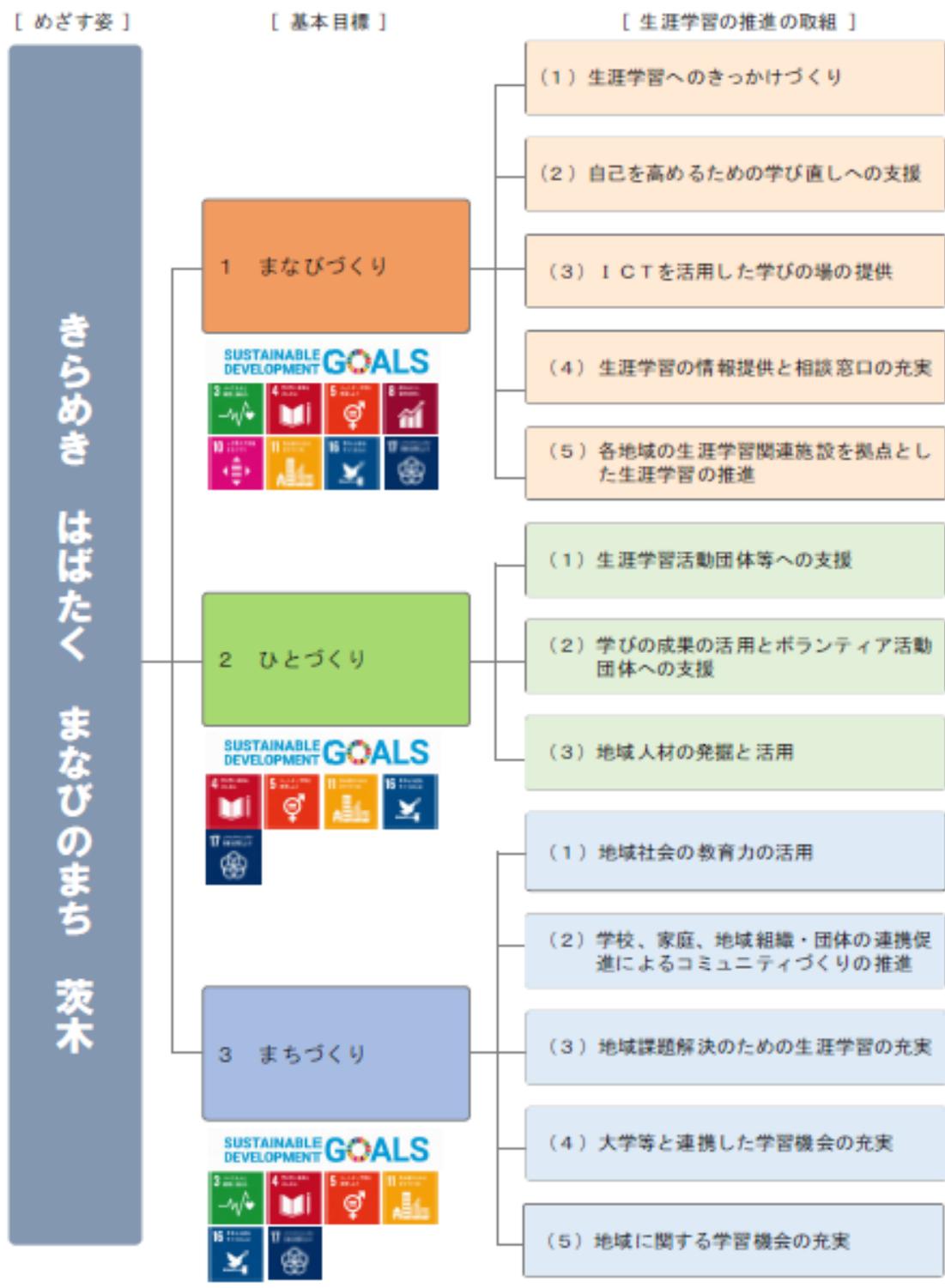
第1 生涯学習推進計画のめざす姿

1 生涯学習推進計画のめざす姿

人生100年時代の到来に向けて、より長期にわたり豊かな人生を送るために、すべての市民が、いつでも、どこでも学ぶことができ、その学びを通して自己実現や生活の質の向上を図り、学んだ成果を地域社会に還元することができる、“学んで楽しい”と思える生涯学習活動のできるまちの実現をめざします。

きらめき はばたく まなびのまち 茨木

2 生涯学習推進計画の計画の体系



第2 茨木市生涯学習推進計画事業進捗

1 総括表

令和5年度茨木市生涯学習推進計画における、各目標における事業評価は以下のとおりです。なお、評価のA～Dの意味は次のとおりです。

A	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗が順調に進行している。
B	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗がおおむね順調に進行している。
C	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗にやや遅れが生じている。
D	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗に大幅な遅れが生じている。

生涯学習推進の取組評価（再掲事業含む）

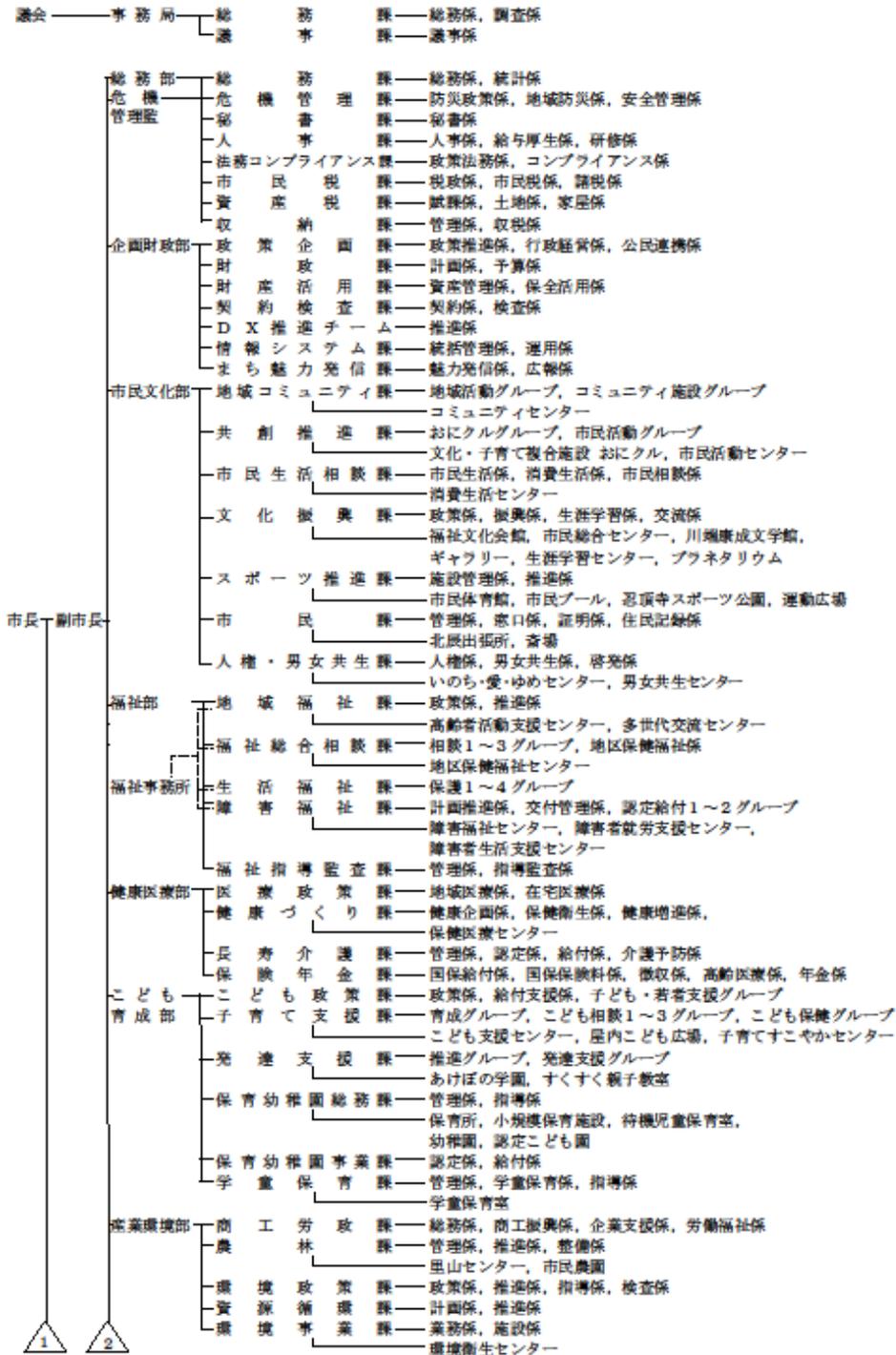
基本目標	生涯学習推進の取組	事業数	生涯学習推進の取組			
			A	B	C	D
1 まなびづくり	(1)生涯学習へのきっかけづくり	55	24	30	1	0
1 まなびづくり	(2)自己を高めるための学び直しへの支援	2	0	2	0	0
1 まなびづくり	(3)ICTを活用した学びの場の提供	3	1	2	0	0
1 まなびづくり	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実	4	4	0	0	0
1 まなびづくり	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進	7	0	7	0	0
2 ひとづくり	(1)生涯学習活動団体等への支援	2	0	2	0	0
2 ひとづくり	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援	1	0	1	0	0
2 ひとづくり	(3)地域人材の発掘と活用	4	1	2	1	0
3 まちづくり	(1)地域社会の教育力の活用	2	0	2	0	0
3 まちづくり	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進	7	3	4	0	0
3 まちづくり	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実	12	6	6	0	0
3 まちづくり	(4)大学等と連携した学習機会の充実	2	1	1	0	0
3 まちづくり	(5)地域に関する学習機会の充実	21	7	14	0	0
合計		122	47	73	2	0

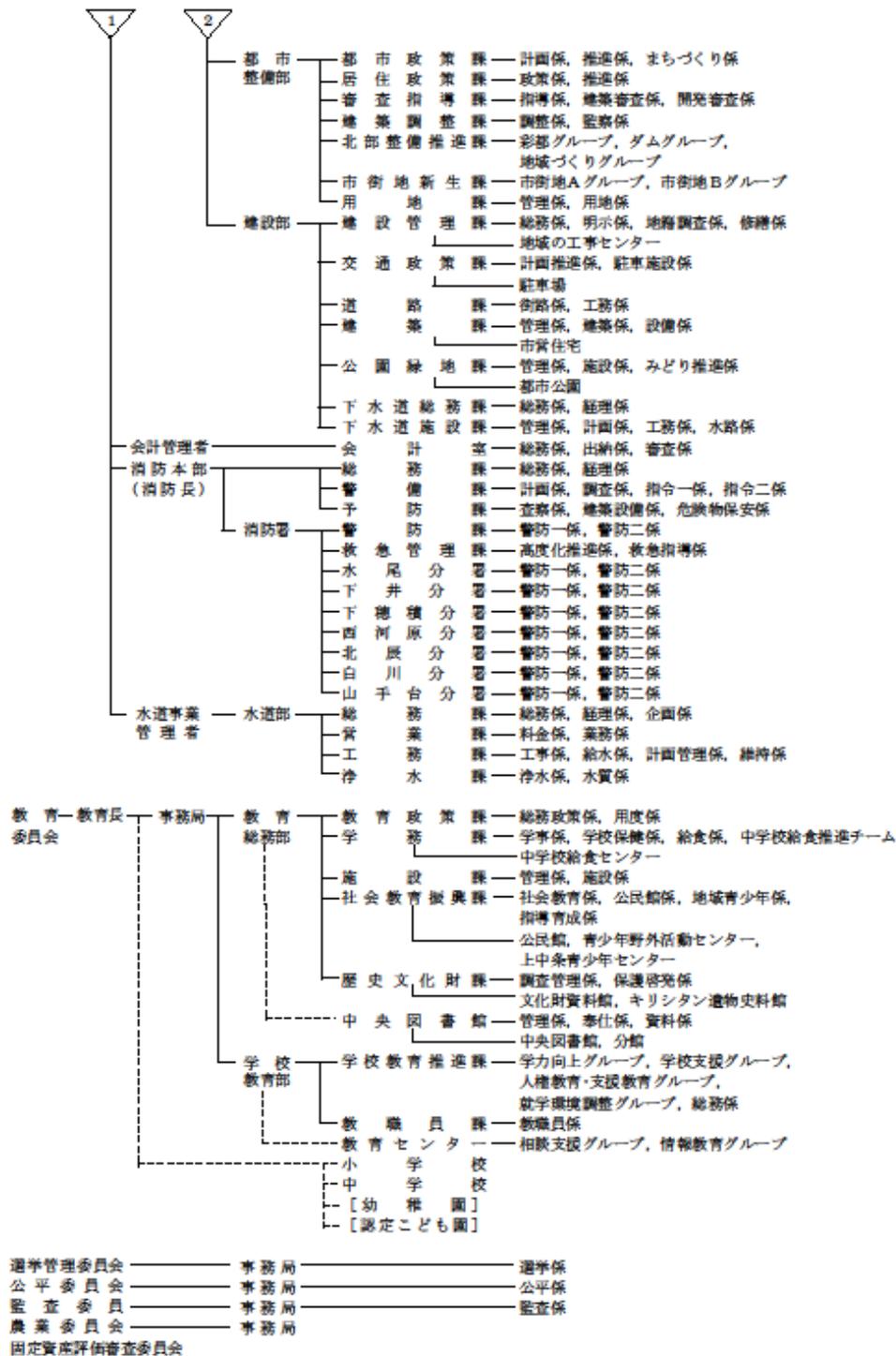
2 生涯学習推進計画事業評価の見方について

◇ 基本目標																																									
1	<p>基本目標</p> <p>1 まなびづくり</p> <p>茨木市生涯学習推進計画の基本目標の内容を記載しています。</p>																																								
◇ 生涯学習推進の取組内容																																									
2	<p>生涯学習推進の取組</p> <p>(1)生涯学習へのきっかけづくり</p>																																								
3	<p>取組内容</p> <p>茨木市生涯学習推進計画の生涯学習推進の取組内容について記載しています。</p>																																								
◇ 事業内容																																									
1	<p>事業名</p> <p>生涯学習センター出前講座実施事業</p> <p>担当課 (部名) 市民文化部 (課名) 文化振興課</p> <p>再掲 1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、②多様性を尊重した生涯学習のきっかけづくり</p> <p>事業内容 市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動実績</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>出前講座メニュー数</td> <td>件</td> <td>119</td> <td>117</td> <td>119</td> <td>115</td> <td>120(R6)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>出前講座実施件数</td> <td>件</td> <td>242</td> <td>132</td> <td>272</td> <td>795</td> <td>800(R6)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>出前講座受講者数(延人数)</td> <td>人</td> <td>12141</td> <td>2953</td> <td>9176</td> <td>61662</td> <td>62000(R6)</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>R5年度の取組内容及び成果</p> <p>評価</p> <p>令和5年度時点での茨木市生涯学習推進計画における事業進捗状況について、取組内容及び成果、課題や方向性について記載し、事業の評価を実施しています。</p> <p>課題</p> <p>引き</p> <p>今後の方向性</p> <p>各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。</p>	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	115	120(R6)	②	出前講座実施件数	件	242	132	272	795	800(R6)	③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	61662	62000(R6)	④							
活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標																																		
①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	115	120(R6)																																		
②	出前講座実施件数	件	242	132	272	795	800(R6)																																		
③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	61662	62000(R6)																																		
④																																									
2	<p>事業名</p> <p>【再掲】家庭教育支援事業</p> <p>担当課 (部名) 教育総務部 (課名) 社会教育振興課</p> <p>再掲 -</p> <p>事業内容 家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動実績</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>講習・講座の開設数</td> <td>回</td> <td>91</td> <td>112</td> <td>135</td> <td>142</td> <td>48(R6)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>講習・講座の参加者数</td> <td>人</td> <td>1054</td> <td>1208</td> <td>1506</td> <td>1523</td> <td>480(R6)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>R5年度の取組内容及び成果</p> <p>評価</p> <p>B 家庭教育学級については、各主体の積極的な取り組みの結果、参加者数が微増した。</p> <p>課題</p> <p>家庭教育学級参加者数の減少や親学びサポーターのなり手が不足している。</p> <p>今後の方向性</p> <p>ICTの活用や関係団体との連携等を進めながら、社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、新たな実施手法を検討していく。</p>	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	①	講習・講座の開設数	回	91	112	135	142	48(R6)	②	講習・講座の参加者数	人	1054	1208	1506	1523	480(R6)	③								④							
活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標																																		
①	講習・講座の開設数	回	91	112	135	142	48(R6)																																		
②	講習・講座の参加者数	人	1054	1208	1506	1523	480(R6)																																		
③																																									
④																																									

茨木市機構図

令和7年1月1日現在

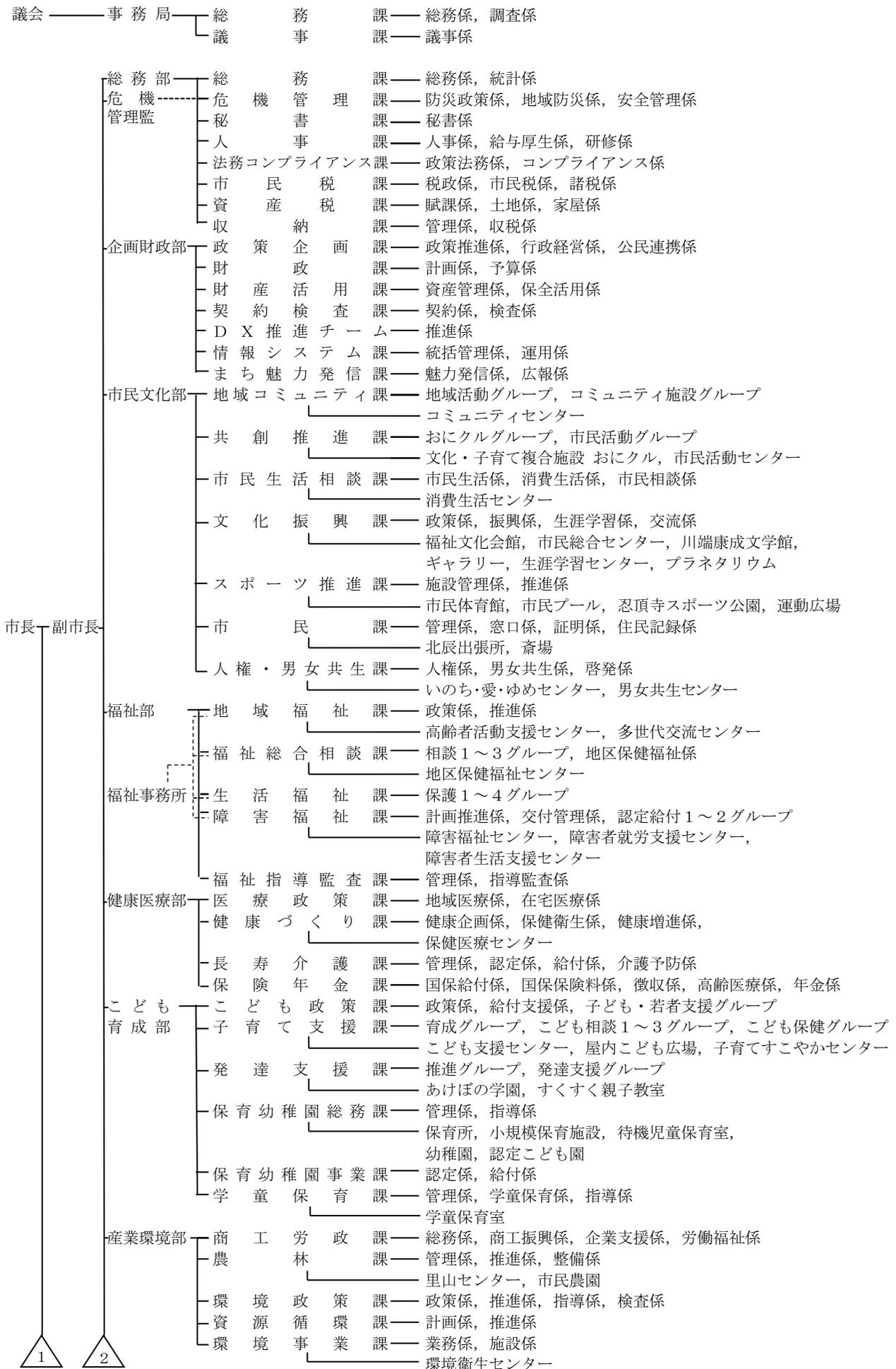


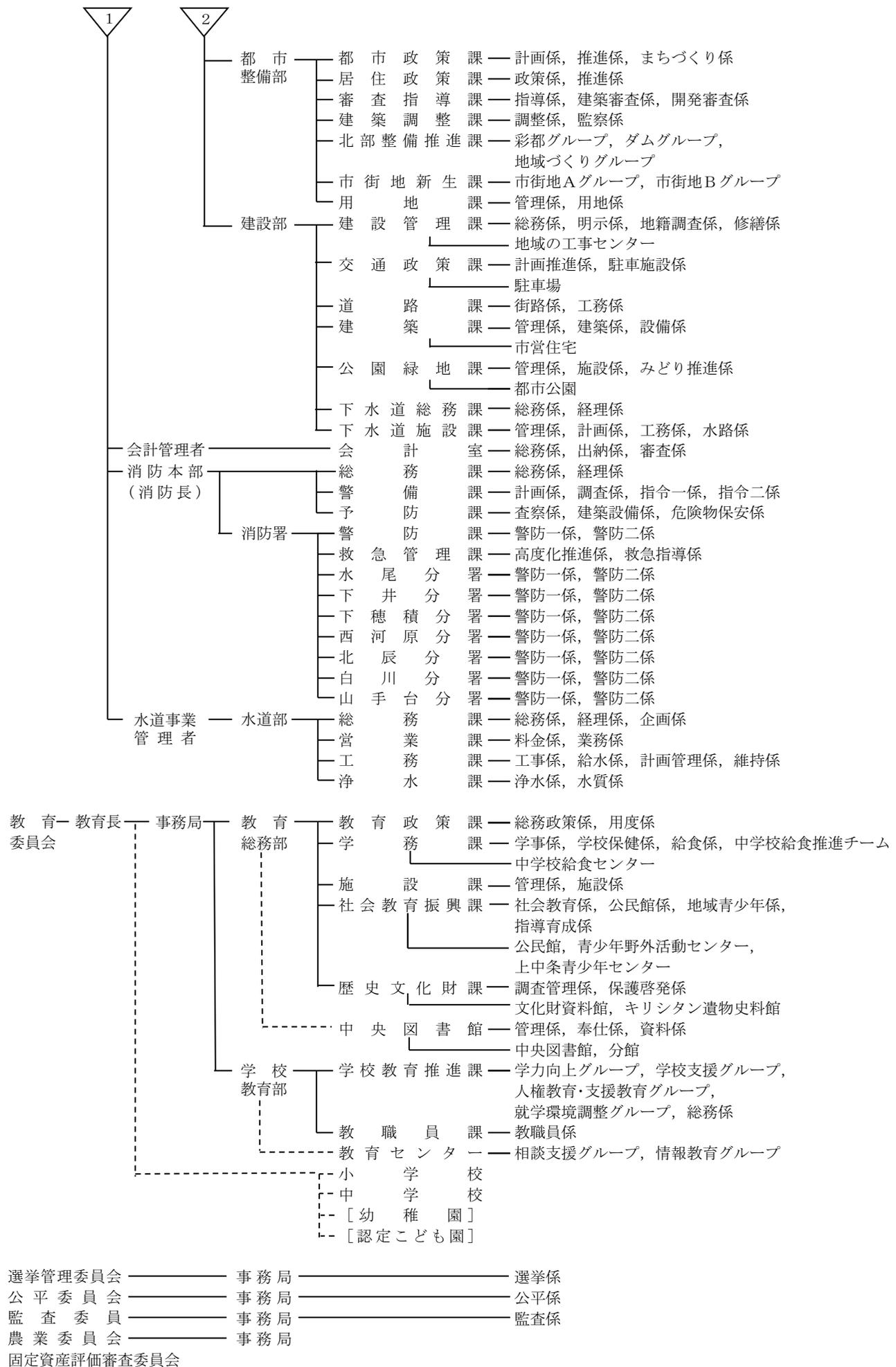


組織数 14部79課175係30グループ

茨木市機構図

令和7年1月1日現在





【基本目標】

1 まなびづくり

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組みます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センター等の生涯学習関連施設において、多様な分野における市民向け講座の充実を図ります。また、興味や関心を持つことができ、様々な対象者が参加しやすい日程とテーマを設定した講座の開催を検討します。 ● 産官学民の様々な機関が実施されている機能を包括的に統合し、市民が生涯学習を実施していくためのプラットフォームづくりを進めるとともに、大学や民間事業者（企業）等と連携して、専門的な内容や特色ある講座を開催します。 ● 様々な学習機会や行政等が実施する公開講座等の情報提供に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	生涯学習センター出前講座実施事業							
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課		
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、②多様性を尊重した生涯学習のきっかけづくり							
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。							
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	
	①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	115	120(R6)	
	②	出前講座実施件数	件	242	132	272	795	800(R6)	
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	61662	62000(R6)	
	④								
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、出前講座を実施した。また令和5年度は、令和4年度と比較すると実施件数、受講者数ともに大幅に増加しており、コロナ禍以前の数値に近づいてきおり、市の多様な事業等について学ぶ機会が提供した。						
	課題	引き続き、市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある。							
今後の方向性	各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。								
2	事業名	【再掲】家庭教育支援事業							
	担当課	(部名)	教育総務部			(課名)	社会教育振興課		
	再掲	-							
	事業内容	家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。							
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	
	①	講習・講座の開設数	回	91	112	135	142	48(R6)	
	②	講習・講座の参加者数	人	1054	1208	1506	1523	480(R6)	
	③								
	④								
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 家庭教育学級については、各主体の積極的な取り組みの結果、参加者数が微増した。						
	課題	家庭教育学級参加者数の減少や親学びサポーターのなり手が不足している。							
今後の方向性	ICTの活用や関係団体との連携等を進めながら、社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、新たな実施手法を検討していく。								

3	事業名	生涯学習センターきらめき講座等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習を学びたい人が、様々な分野の講座を選択できるようにきらめき講座等や各種主催事業を実施します。また、大学や企業等が持つ知的財産を市民が学ぶことができるよう、連携講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	きらめき講座受講生(延人数)	人	13166	20426	25386	15903	26000(R6)
	②	きらめきホール事業数	件	7	7	9	11	10(R6)
	③	大学連携講座受講者数(延人数)	人	1250	1778	282	2802	2900(R6)
	④	企業等連携講座受講者数(延人数)	人	432	416	548	877	900(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					令和5年度は空調改修工事により約3カ月間休館したため、きらめき講座の受講生数が令和4年度と比較すると大幅に減少しているが、大学連携講座及び企業等連携講座の開催講座数を増やしたことにより受講生数が増加した。
課題	引き続き、教養・実技講座ともに様々な分野の講座を実施しているが、更なる充実のため、引き続き多様なニーズを情報収集し、学習機会の提供と学習促進につなげる必要がある。							
今後の方向性	多様なニーズの講座を展開できるよう、情報収集を行い、講座の開催を検討する。							
4	事業名	まちなかアートツアー						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内に設置されている彫刻や絵画等の芸術作品を市民に知ってもらうことにより、文化芸術を身近に感じてもらう機会とするため、「まちなかアートツアー」を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	参加者数	人	-	-	10	18	15(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					身近にある文化芸術にふれ、市民同士がつながることができる場を創出するため、京都芸術大学のアート・コミュニケーション研究センターと共同で対話型鑑賞プログラムの講座を実施した。
課題	より多くの市民に参加してもらえよう努める必要がある。							
今後の方向性	対話型鑑賞プログラムの講座を継続的に実施する。							
5	事業名	文化振興事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	文化関係団体や文化振興財団と連携して芸術文化に関係する事業を実施することにより、広く市民文化の向上を図るとともに文化関係団体の活動を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	文化振興事業参加者数	人	553	7707	12806	28236	12000(R6)
	②	文化振興財団主催事業入場者数	人	2215	4202	5685	8412	5500(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					おにクルの開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等を実施し、過去にない規模の参加者数を達成することができた。また文化振興財団の主催する事業についてもおにクルに関連したものを含め、事業数、参加者ともに大きく目標を上回る結果となった。
課題	おにクル開館時の一時的な盛り上がりにとどまることがないよう、今後の展開につなげる取り組みが引き続き必要である。							
今後の方向性	引き続き、多くの市民や団体が参加できる取組を続ける。							

6	事業名	少年少女合唱団育成活動事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の音楽文化の振興と青少年の健全育成を図ることを目的に、吹奏楽や合唱において市民の音楽活動の充実に努めるとともに音楽文化の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	少年少女合唱団定期演奏会	人	無観客	無観客	522	613	650(R6)
	②	オータムコンサート	人	無観客	779	641	686	600(R6)
	③	スプリングコンサート	人	中止	無観客	227	390	500(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					全ての公演について事前申込制とせず、新型コロナウイルス感染症拡大前と同じく事前申込不要という形態で実施し、前年よりも多くの方に来場していただいた。オータムコンサートでは、市内中学校の選抜バンドの演奏、市吹奏楽団との共演など、若い世代に音楽を通じた交流の機会を提供する事業ともなっている。
課題	令和6年度から、おにクルでの開催となるため、事業周知などの方法や広報活動を検証し、さらに効果的に実施することが必要である。							
今後の方向性	演奏会を、多様な世代の方に、音楽にふれてもらう機会とする。							
7	事業名	【再掲】スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実に図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	29	30	92	29	100(R6)
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	51	41	19	47	50(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実に図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
8	事業名	生涯スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	身体を動かす楽しさを体感することにより、運動やスポーツの習慣化を図るため、体育協会やスポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等の関係団体と連携し、幼児から高齢者を対象としたスポーツイベントなどを開催します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	キッズスポーツデー	人	-	-	750	1424	1500(R6)
	②	ウォーキング講習会	人	42	71	68	69	100(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実に図る。							

9	事業名	生涯学習スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	幼児から高齢者まで幅広い世代の市民が、スポーツを楽しめる環境づくりを図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民総合スポーツ大会参加者数	人	3687	6766	10340	10372	13000(R6)
	②	地区スポーツ・レクリエーション大会	人	-	51	10864	24143	25000(R6)
	③	オーパスシステムの登録者数	人	12580	13306	13092	13401	13600(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。					
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実を図る。							
10	事業名	読書推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市域全体で乳幼児から高齢者まで、物語や読書を楽しむことができるよう、学校や関係施設、関係課と連携し、環境の整備・機会の提供を行い、読書活動を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	読書推進行事参加者数（おはなし会参加者数を除く）	人	240	3778	2177	1850	2000(R6)
	②	おはなし会参加者数	人	1992	2519	7046	11937	12000(R6)
	③	職場体験・図書館見学受け入れ学校数	校	1	8	19	31	30(R6)
	④	特集コーナー企画数	回	304	340	442	485	470(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 講習会などをオンライン開催から、対面開催に変更したため読書推進行事参加者数は減少したが、おはなし会は、おにクルでの「ちいさいおはなし会」の回数増加や私立保育園等からの依頼の増加により、参加者数は大幅に増加した。また、ブックトラベルをおにクルで開催し、約10,000人の来場があった。これらの取組により、市民が本や物語に出会う機会を増やすことができた。					
課題	こどもの読書活動を継続して推進するため、これまでの取組を検証し、「第3次子ども読書活動推進計画」を改定する必要がある。							
今後の方向性	誰もが利用しやすい環境の整備・充実を図り、継続して、こどもの読書活動を推進するため、第3次茨木市子ども読書活動推進計画については改定を行う。							
11	事業名	図書館利用促進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に利用してもらい、利用者の教養、レクリエーション等に資することを目的に、市民との協働によりさまざまな行事や取り組みを行うとともに、市民の利便性の向上のため、サービス拠点の充実など、図書館サービス網の整備を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	利用推進行事参加者数（ロビー展示を除く）	人	209	796	2647	4367	4000(R6)
	②	返却ポスト返却冊数	冊	131290	143478	170134	178739	170000(R6)
	③	広域利用貸出冊数（茨木市民が他市で利用した冊数）	冊	17883	20015	24527	24132	25000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B おにクルぶっばー開館に向けてのイベントの実施回数を増やしたことや、移動図書館による市内の地域行事参加回数を増加させたことにより、多くの方に図書館サービスについて知ってもらうことができた。					
課題	ボランティア等との協働や、関係各課との連携により、継続して図書館の利用促進を行う必要がある。							
今後の方向性	おにクルで行っている各機能との共創・連携を参考に、市内各図書館においても関係機関との連携を進めることで、図書館利用を促進する。							

12	事業名	【再掲】地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民協働企画講座開催回数	回	9	83	104	101	110(R6)
	②	市民協働企画参加人数	人	281	1559	1774	1782	1800(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	ローズWAM 1階の喫茶スペースを活用しての「WAMcafe」や講座やワークショップの企画を募集する「WAMチャレンジ企画」といった市民が自ら企画した男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。					
	A							
課題	喫茶スペースについては、男女共同参画に関する事業や公益活動のために定期的に利用していただくとともに、新たな利用者にも企画を実施していただき、新たな視点を取り入れる必要がある。							
今後の方向性	喫茶スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							
13	事業名	環境教育・啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていく。実施にあたっては、市が直接実施するほか、環境教育ボランティアや市内環境保全活動市民団体と協働する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	テーマ設定型環境教育講座開講数	回	-	1	-	1	1(R6)
	②	環境教育ボランティア・サポーター登録人数	人	60	56	58	52	70(R6)
	③	小学校向け環境学習プログラム活用校	校	11	13	6	8	10(R6)
	④	こどもエコクラブ登録者数	人	57	48	35	34	50(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	環境教育ボランティア及びサポーターと協働し、環境学習講座を開催した。					
	B							
課題	講座の実施を増やしていくことを検討し、環境学習の提供機会を増やしていく必要がある。							
今後の方向性	環境学習を提供する機会を増やしていくことを目指し、環境教育ボランティアや市内の環境保全活動市民団体と協働していく。							
14	事業名	環境フェア開催事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の環境の現状などをわかりやすく情報提供し、これからの市域環境を市民とともに保全・創造する契機の間とするため、市民団体や事業者の参画のもと、市民一人ひとりが取り組むべきことを、催し物などを通じて分かりやすく紹介し、環境への理解を深める場とする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	来場者数	人	3400	-	4100	5200	5500(R6)
	②	屋内行事参加団体数	団体	25	19	24	28	30(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	展示物やワークショップなどを通して、市民の方に環境への理解を深める機会を提供した。					
	B							
課題	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったため、来場者数は増加しているが、リピーターの方が多いため、広報の仕方やコーナー及びワークショップの内容を検討する必要がある。							
今後の方向性	環境啓発に関するイベントの適切な開催方法を模索しながら、多様なコーナー及びワークショップを提供できるように検討していく。							

15	事業名	青少年野外活動センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の健全育成のために、自然体験や集団生活の機会を提供するとともに、青少年が自然に親しみ、仲間作りやボランティア活動等を楽しみながら体験することで、より豊かな人間性を身に付けるための学習機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	年間利用者数	人	2615	4859	6816	7816	8000(R6)
	②	主催事業数	事業	3	6	10	11	11(R6)
	③	主催事業の参加人数	人	770	523	1300	1522	1600(R6)
	④	稼働率	%	42	54.5	63.3	61	65(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					森林や施設の整備を行い安心安全な環境を整え、新規事業であるひとり親家庭のキャンプも実施し様々な体験活動の機会を提供した。
課題	施設が広大であるため、森林整備や環境整備が整っていない。引き続き安心安全な環境を整え体験活動の充実を図る。							
今後の方向性	引き続き、非認知能力の向上など、さらなる体験活動の機会を提供し、事業内容の充実に努める。							
16	事業名	社会教育事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	知識の習得とともに自らの学習と実践を通じて自主的活動の充実と地域の連帯意識を高めることを目的に、各種講習会を開催する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講座等の開設数	回	167	156	187	161	160(R6)
	②	講座等の参加者数	人	993	1152	973	1293	1100(R6)
	③	成人祭参加率	%	51.9	57.8	55.3	73.1	60(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					コロナ禍後においても、各教室の実情を踏まえながら実施することができた。
課題	事業実施にあたり、多文化共生事業との連携を進めていく必要がある。							
今後の方向性	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会情勢の変化に応じた実施形態や手法を検討する。							
17	事業名	中央公民館講座実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	社会教育の観点から、市民の学習機会の充実を図るため、生涯学習センターを活用した少人数での学習体制による日本語読み書き学級や市民ニーズに対応する講座を開催するほか、現代的な課題、地域課題に応じた事業にも取り組む。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	日本語読み書き学級実施回数	回	20	29	35	34	35(R6)
	②	日本語読み書き学級受講者数(延べ人数)	人	259	281	319	320	320(R6)
	③	公民館長等研修会	回	0	1	1	1	1(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					日本語読み書き学級については、教室の実情を踏まえながら、受講者のニーズに応えることができた。 公民館長等研修会については、連携企業からの提案講座の紹介や子どもが参加する事業の取組事例の発表を行うことで、課題解決に向けた情報共有を図ることができた。
課題	コロナ前と比べ日本語読み書き学級については受講者が減少していることから、新たな指導者の獲得や受講者の増員を図ることが必要である。							
今後の方向性	多文化共生事業との連携を図りながら、日本語読み書き学級を実施する。							

18	事業名	財政状況等の公表事務事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	財政課			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に、市の財政運営や状況等について関心を持ってもらうために、よりわかり易くタイムリーな財政情報を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ホームページの更新	回	30	27	21	14	15(R6)
	②	広報誌への掲載	回	4	5	5	2	3(R6)
	③	小・中学校の社会科授業との連携	回	2	2	2	2	2(R6)
	④	高校の社会科授業との連携	回	0	0	1	1	2(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					
課題	小・中・高等学校の社会科授業との連携については、アンケートを実施し資料等への意見をいただいております。意見を参考にしながら今後も継続して行く必要がある。							
今後の方向性	ホームページについては、よりわかりやすいページ作成に努める。社会科授業との連携については、引き続きアンケートの結果を踏まえながら事業を継続し、新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となっていた授業に関しては再開する。							
19	事業名	家庭系ごみ減量推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	循環型社会の形成に向け、市民がごみの減量化に関する理解を深めるための啓発を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	出前講座	回	3	0	7	16	14(R6)
	②	ごみ分別アプリ ダウンロード数(累計)	件	32420	42275	52239	62353	72000(R6)
	③	フードドライブ	個	1261	1407	1773	1310	1000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					
課題	一般廃棄物処理基本計画の減量目標達成に向け、重点施策である食品ロス削減やプラスチックごみ削減等について、さらなる取組が必要である。							
今後の方向性	引き続き、広報誌・ホームページ・ごみ分別アプリ等による積極的な発信や、小学生を対象とした出前講座の実施などにより、周知・啓発に努めるとともに、食品ロス削減、プラスチックごみ削減や再資源化可能物の分別の徹底等について重点的に取り組んでいく。							
20	事業名	一般介護予防事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進し、要介護状態になっても生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指す。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	はつらつ教室参加人数	人	4294	2562	3556	4345	4345(R6)
	②	出張講座等参加延人数	人	1104	1374	3514	5518	5588(R6)
	③	街かどデイハウス外介護予防事業参加延人数	人	740	587	0	0	0(R6)
	④	介護予防健康運動教室	人	4271	1686	2520	2785	0(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					
課題	常設型教室の利用者の固定化、住民が主体的に介護予防に取り組む支援の在り方やはつらつパスポート等紙媒体のICT化の推進が課題である。							
今後の方向性	介護予防健康運動教室については廃止。他の事業は継続し、利用者に地域にある介護予防の資源等を情報提供し、セルフマネジメントを支援する。はつらつパスポート等紙媒体のICT化の推進について、研究する。							

21	事業名	応急手当普及啓発活動事業						
	担当課	(部名) 消防署	(課名)	救急管理課				
	再掲	-						
	事業内容	応急手当の普及活動を行う事により、心肺蘇生法ができる人の増加を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	救命講習等受講者数	人	3765	2526	7277	11022	15000(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	目標は達成できなかったが、令和4年度に引き続き令和5年度も増加することができた。新型コロナウイルス感染症の感染症分類が変更され、団体などからの講習依頼も増加し、おおむね順調に推移している。					
	B							
課題	子育て世代の受講希望が増えており、様々な年代の参加者がいる定例講習会では乳幼児と一緒に参加することが難しい状況である。							
今後の方向性	子育て世代が参加しやすく、乳幼児の予防救急や応急手当、心肺蘇生が学べる講習会を企画する。							
22	事業名	【再掲】富士正晴記念館事業						
	担当課	(部名) 教育総務部	(課名)	中央図書館				
	再掲	-						
	事業内容	郷土の作家富士正晴氏に関する資料の収集・整理・保存を行い、冊子の刊行や、整理資料の公開、講演会（年1回）を実施し、文化芸術の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	記念館来館者数	人	2691	3093	3527	4154	4000(R6)
	②	講演会参加者人数	人	-	37	39	28	30(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	企画展・講演会・子ども向けイベントの開催、および移動図書館ともしび号出動時におけるクイズの実施で、広く富士正晴と記念館の周知を行い、来館者数が増え、より多くの人に富士正晴の業績や魅力を発信することができた。					
	A							
課題	郷土の作家富士正晴について知らない市民が多く、認知度が低い。							
今後の方向性	中央図書館で企画展に連動した本の特集をしたり、定期的にSNS等で情報を発信し、広く郷土ゆかりの作家「富士正晴」と「富士正晴記念館」の周知を図る。							
23	事業名	【再掲】ライフスタイルの省エネ化推進事業						
	担当課	(部名) 産業環境部	(課名)	環境政策課				
	再掲	-						
	事業内容	省エネ化を推進するため、イベントや広報媒体を活用して、省エネ活動につながる啓発を行うとともに、市民に省エネナビ（家庭用電力使用量測定機器）の貸出と、地球温暖化防止を目的に電気・ガス等の使用量を記録し家庭での二酸化炭素排出量を計算する環境家計簿の普						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	環境家計簿に関する市民講座開催数	回	7	10	7	7	10(R6)
	②	環境家計簿に関する市民講座参加者数	人	59	111	161	143	150(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	市内で各環境保全活動に取り組む市民団体と協働し、市民参加型の事業を実施した。また、環境家計簿を作成し、その普及促進を行った。					
	B							
課題	定員に対して参加者が少ない市民講座がある。							
今後の方向性	講座内容や実施時期、周知方法等を見直し及び検討を行っていく。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		②多様性を尊重した生涯学習へのきっかけづくりの推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 人生100年時代の到来や超高齢社会が進む中で、生活課題の一つでもある健康問題に対応できるよう、健康の維持・増進を図っていくための健康づくりに関する生涯学習活動を推進します。 ● 人権、多文化共生、男女共同参画、環境、消費者問題、防災・減災等、現代的・社会的課題に対応した、多様な講座や事業を開催します。 ● 高齢者、働く世代、子育て世代、外国人等、すべての人々が自己実現をめざし、自由に学びの機会を得られるよう、学びやすい機会の提供に努めます。 ● 障害のある人が、教育やスポーツ、文化等の多様な生涯学習活動を行うことができるよう、活動内容等を含めた環境整備に努めます。 ● 子どもが夢や希望をもてる社会を実現するため、すべての子どもに対し、キャリア教育等の包括的な支援を推進します。 ● 親子のふれあい活動などの充実を図り、家庭の教育力を高める活動を推進します。

◇ 事業内容

24	事業名	生涯学習センター一時保育事業						
	担当課	(部名)	市民文化部		(課名)	文化振興課		
	再掲	-						
	事業内容	子育て世代等の人々が生涯学習に取り組むことができるよう、センターの保育室にて一時保育を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	保育人数	人	108	266	234	112	270(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	令和5年度は空調改修工事により約3カ月間休館したため、貸室利用者や主催事業が中止したことにより令和4年度の実績値から比較すると保育人数は減少をしているが、子育て世代等の方々からきらめき講座をはじめとした講座やイベントに自由に参加できるよう、一時保育の実施を行った。					
課題	-							
今後の方向性	引き続き、子育て世代等の方々から自由に学びの機会を得られるように一時保育を実施する。							
25	事業名	地域国際化推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部		(課名)	文化振興課		
	再掲	-						
	事業内容	市内で生活する外国人が生活しやすいよう、市民ハンドブック等の刊行物の多言語化や、外国人も日本人も共に生活できる環境づくりを行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	多言語版等生活ガイドブック配布数	部	308	1078	765	794	800(R6)
	②	国際交流事業参加者数(協会事業参加者含む)	人	350	673	1445	2131	1500(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	茨木市国際親善都市協会との連携イベントである「国際交流の集い」について、コロナ禍での中止を経て令和5年度に再開し、異文化理解を深める交流ブース出展や日本文化に親しむ体験活動等の充実等から多くの参加者がありました。また、ミネアポリス市とはオンラインでの交流を継続しました。加えて、実用日本語学習会では在留外国人の増加に対応し、実施した。					
課題	在住外国人との交流促進や異文化理解を深めるための取組を関係団体等と連携して行う必要がある。外国人施策に関わる庁内及び各種団体との連携、調整を図りながら、情報の共有、発信を行い、コーディネーター機能を強化する必要がある。							
今後の方向性	在留外国人との交流を促進するイベントについて、関係団体と調整内容し、内容の充実を図るとともに、より効果的な周知に努めます。							

26	事業名	姉妹都市等との交流事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	海外や国内の姉妹都市等との市民レベルかつ、さまざまな分野での交流を促し、他地域の文化の理解を深める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	訪問・代表団等交流人数（協会事業参加者含む）	人	-	-	31	119	185(R6)
	②	宿泊施設利用補助制度利用者数（小豆島町）	人	38	60	183	219	500(R6)
	③	宿泊施設利用補助制度利用者数（竹田市）	人	27	44	90	95	190(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	国内外の姉妹・友好都市との交流については、茨木市国際親善都市協会と連携し、小豆島オーブマラソンへの参加や竹田市歴史文化姉妹都市提携10周年事業を実施しました。宿泊施設利用補助制度の利用者数は、目標値に達しなかったものの増加している。					
	B							
課題	姉妹都市関係にある都市との交流を促進するため、市民訪問団をはじめとした市民レベルでの交流を図り、市民の関心を高めることで、互いの文化の理解を深める必要がある。							
今後の方向性	姉妹都市との交流を継続するとともに、市民レベルでの交流が盛んになるよう、事業や制度の周知に努める。							
27	事業名	子ども・若者自立サポート事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ひきこもり・ニート・不登校等の状況にある子ども・若者が、状態改善できるよう、子ども・若者自立支援センター「くろす」で、ひきこもり等の当事者や家族の相談支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	スモールステップの段階（自立度）アップ率	%	96	96.9	97.8	98.2	95(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	茨木市子ども・若者支援地域協議会の構成機関を対象に、精神疾患・精神障害をテーマに講習会を開催した。福祉や教育等、様々な機関からの参加があり、参加者アンケートの結果は高評価であった。また、子ども・若者支援地域協議会に大阪法務局北大阪支局が参画したことから連携強化につながった。子ども・若者自立支援センター「くろす」におけるスモールステップの段階（自立度）アップ率が昨年度と比べ上昇していることから、子ども・若者の状態改善を図ることができている。					
	B							
課題	早期に自立への見通しが想定できる10代の当事者（保護者含む）に関する相談が増加する傾向がみられることから、ユースプラザとの連携を更に強化する必要がある。							
今後の方向性	相談者への支援については継続して実施する一方、支援連携についてはより具体的に仕様書にその内容を盛り込み、改善を図っていく。							
28	事業名	声の広報、点字広報の発行						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	視覚障害者や高齢者等を対象とした広報誌の音訳版「声の広報いばらき」や点字版「広報いばらき」を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	声の広報登録者数	人	26	24	24	23	23(R6)
	②	点字の広報発行部数	人	287	243	216	216	216(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	滞りなく発行し、希望者に郵送することができた。					
	A							
課題	利用者の高齢化等を背景に、声の広報・点字の広報ともに利用者数が減少傾向にある。							
今後の方向性	必要な方にご利用いただけるように、今後も周知に取り組む。							

29	事業名	火災予防推進事業						
	担当課	(部名)	消防本部・消防署	(課名)	予防課			
	再掲	-						
	事業内容	火災を未然に防止するため、火災予防広報を充実する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	火災予防運動に伴うイベント	回	0	0	2	2	2(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 秋季春季に実施される全国火災予防運動に伴い、火災予防広報の一環として11月には消防署開放デー、3月には春の消防フェアを実施した。ターゲットを子育て世代としイベントに参加してもらうことで火災予防について興味を持ってもらうきっかけづくりとなるよう取組んだ。					
課題	昨今救急件数の増加等によりイベントの実施にかかる人員確保が困難となっている。消防体制を確保しながら安全に実施するため、職員の動員及びイベント内容について、小規模でも満足度の高いものとしていく必要があると考える。							
今後の方向性	令和6年度も消防体制に影響がない範囲で年2回を目標に火災予防広報イベントを実施する。							
30	事業名	交通安全対策事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	交通政策課			
	再掲	-						
	事業内容	交通事故の撲滅を図るため、幼稚園・小中学校等での交通安全教室を実施するとともに、交通安全推進団体に対し交付金を付与する。また、自転車乗車中の転倒による頭部損傷の重大事故から身を守る、自転車乗車用ヘルメットの着用を広く市民に啓発推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	交通安全教室等の実施(回数)	回	96	111	120	138	140(R6)
	②	交通安全教室等の実施(参加者)	人	28980	35269	35921	37467	39,000(R6)
	③	自転車乗車用ヘルメット購入費補助金の交付(補助人数)	人	-	-	-	150	1,500(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B ・交通安全教室の実施回数・参加者数ともに増加し、広く市民に啓発を行った。 ・令和5年4月1日より自転車乗車用ヘルメット着用が努力義務化されたことを踏まえ、自転車の交通安全教室についても実施回数を増やし、啓発に努めた。 ・65歳以上の高齢者を対象に自転車乗車用ヘルメット購入費補助金を交付し、ヘルメット着用者の増加に努めた。					
課題	・交通安全教室の実施について案内したが開催に至らない団体がある。 ・交通安全教室を実施していない子育て世代・働く世代に対し、交通ルール等について啓発する必要がある。							
今後の方向性	・当事業への理解と重要性について、引き続き関係団体へ周知する。 ・自転車乗車用ヘルメットの着用率向上に向け、自転車乗車用ヘルメット購入費補助事業に加え、効果的な啓発に努める。							
31	事業名	女性の活躍促進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現を目指して、「女性活躍推進法」及び「第2次男女共同参画計画(改訂版)」に基づき、更なる女性の活躍推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	関連講座参加者数	人	417	54	47	77	100(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	C 女性活躍に資することを目的に年収の壁問題や家計管理・資産管理のセミナーを実施した。漠然と考えていたことについて、新たな視点を見つけることができて新鮮でより理解できたとの声があった。					
課題	本年度は基礎的な家庭生活における内容に加え年収の壁等、働き方の選択に繋がる内容とした。今後はさらに実際の活躍に繋がる内容についても検討していく必要がある。							
今後の方向性	就労やキャリアアップについては、商工労政課とも連携して内容を検討していく。							

32	事業名	茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的な人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	2	3	6	7	8(R6)
	②	人権相談	人	54	62	30	35	80(R6)
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	3	4	8(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	講演会では、会場入場とオンライン配信を併用する手法や、人材養成講座では、おにクルの開館にあわせたテーマ設定など工夫を凝らし、参加者の増につながった。					
	B							
課題	人権センターの事業内容等について、効果的な手法の検討が必要である。							
今後の方向性	引き続き、効果的な啓発を図るため、人権センターとの連携をすすめていく。							
33	事業名	ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(3)地域課題解決のための生涯学習の充実						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	女性相談件数	件	2084	2113	2038	1964	2000(R6)
	②	特別相談件数	件	155	110	110	99	130(R6)
	③	相談関係研修等参加者数	人	25	20	35	33	35(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。					
	A							
課題	複雑化する相談に対応して市民生活をサポートするため、相談員の知識・技術の向上が必要である。							
今後の方向性	相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想されるなか、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されたことに伴い、さらに関係部署や関係機関との連携を推進する必要がある。							
34	事業名	人権啓発推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民一人ひとりが人権尊重の精神を当然のこととして身につけ、日常生活において実践することにより、豊かな人権文化の創造をめざすため、相談への対応や冊子の発行、講演会や展示の実施等により、市民の人権意識の高揚に向けた啓発を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	啓発カレンダー・冊子	部	3600	7400	7400	7400	7400(R6)
	②	講演会来場者数	人	488	3051	699	712	1000(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	カレンダーを小学生児童及び中学生生徒に配布するとともに、各教室に掲示してもらい、通年を通して、身の回りの様々な人権課題に気づきかけとなる情報を提供することができた。講演会では、会場入場とオンライン配信を併用する手法により、参加者の確保につとめた。					
	B							
課題	効果的な啓発のためには、啓発手法、テーマ設定、講師の選定等、総合的に検討することが必要となっている。							
今後の方向性	社会情勢や時代のニーズに合った内容・手法等、引き続き検討していく。							

35	事業名	非核平和推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	「非核平和都市宣言」の趣旨の普及高揚を図り、核兵器廃絶と平和に関する市民の関心と理解を深めるため、非核平和展及びパネル展を開催するとともに、街頭啓発を行う。また、民間団体が実施する平和行動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	非核平和展来場者数	人	703	945	1011	980	2000(R6)
	②	非核平和展入場者アンケートによる満足度	%	87	96	89	86	90(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>・非核平和展の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3年間執行していなかった、業者への委託を再開した。また令和2年度以降、継続して提案公募型補助金を受けた関係団体と連携し実施した。</p> <p>・非核平和街頭キャンペーンについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していた駅前での街頭啓発から、非核平和啓発ポスターを路線バス車内や市内各所に掲示する手法に変更し実施した。</p>					
課題	戦争の記憶を風化させず、非核平和の尊さを若い世代に引き継いでいくため、また、現在起こっている世界の紛争等への関心を高めることについて、より効果的な内容や方法を検討し実施する必要がある。							
今後の方向性	非核平和展の来場者や市民意識の醸成、満足度の向上に向けて、より一層内容の充実を図る。							
36	事業名	茨木地区人権推進企業連絡会事務						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪府公正採用選考人権啓発推進員制度の円滑な推進を図り、企業従業員の啓発の充実と就職の機会均等に資することを目的とする茨木地区人権推進企業連絡会の事務局として、従業員研修や推進員研修などを実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	従業員研修・推進員研修開催回数	回	4	5	7	7	7(R6)
	②	研修会受講人数	人	118	55	97	76	100(R6)
	③	事業所内研修用DVDの貸出本数	本	26	33	27	16	20(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	大阪府公正採用選考人権啓発推進員関連の研修会については、人権関係機関等が実施する研修会を推進員研修として位置付けている。茨木地区人権推進企業連絡会会員企業へ参加周知している。研修会受講人数、研修用DVDの貸出本数ともに目標値から乖離しているが、市主催する人権問題企業研修会等、推進員研修に位置付けていない研修に参加されており、一定、研修会を通じて、人権問題の啓発や公正採用選考の推進につながっている。					
課題	企業の公正採用選考人権啓発推進員が交代する場合も多いことから、研修会を充実させることにより、公正採用選考を推進する必要がある。							
今後の方向性	時、場所を選ばないDVDによる社内研修やオンライン研修の受講等、人権問題研修の受講形式の多様化をはかり、受講の機会を増やす。							
37	事業名	【再掲】雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	就職支援セミナー受講者数	人	35	41	35	57	50(R6)
	②	技能講習受講者数	人	2	1	0	2	5(R6)
	③	障害者向けパソコン講座	人	5	5	3	6	-
	④	自営型在宅ワークセミナー受講者数	人	-	18	23	12	-
	R5年度の取組内容及び成果	評価	就職支援セミナーについて、実施回数を削減したが、新型コロナウイルス5類移行や、受講者アンケート等によりニーズを捉えた内容で実施し、受講者には概ね満足いただけた。在宅ワークセミナーの実践編では、今回初めて在宅ワークの1職種であるWEBライティングを取り上げて実践し、日数的には初歩的な内容のみの講義となったが、受講者には概ね満足いただくことができた。					
課題	自営型在宅ワークセミナーは職種も求められる知識も非常に多く、特に実践編を3日実施に実務ができるレベルの知識等を習得することは困難な状況にあるため、実施内容を精査する必要がある。							
今後の方向性	実践的内容を学ぶことができる在宅ワークセミナーについては、多数の民間企業でオンライン実施を多数されていることから、現在就職支援セミナーの一環として実施している入門編について、現在より充実させて実施する。							

38	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	高齢者活動支援センター延利用者数	人	18525	11707	20967	25110	26,000(R6)
	②	多世代交流センター延利用者数	人	38841	46697	72199	82004	76,000(R6)
	③	いきいき交流広場参加者数	人	20787	23193	34737	39863	35,000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、各種講座を実施し、目標値以上の利用者数となった。また、いきいき交流広場においても、コロナ禍で減少していた利用者数が回復し目標値を上回った。					
課題	高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の終息とともに利用者数は大幅に増加しているが、新型コロナウイルス感染症拡大前までの利用者数以上の施設もあるが、全体的には、コロナ禍以前の利用者数の約75%までは戻っている。いきいき交流広場の利用者数に関しては、広場数の増減により単純な比較はできないが、コロナ禍以前の最大数と比べ約80%まで回復している。							
今後の方向性	コロナ禍以前以上の利用状況を目指して、講座内容の充実等を含めて利用者数の増加に努める。							
39	事業名	ふれあいまなび事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	中学及び高校の授業で生徒が子育て中の親子とふれあうことで、様々なこどもがいることを理解し、保護者の子育てへの思いや、子育てに関心を持ち、命の尊さを学ぶ機会を提供する。また、子育て中の親が次世代への子育て支援に貢献できる場を提供し、社会参加を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施学校数	校	1	2	2	4	3(R6)
	②	参加組数	組	4	5	138	146	150(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 子育て中の親が次世代への生徒に向けて実子と共に実体験を伝えることや次世代を担う生徒の問いに答える、また生徒が実際に乳児に触れることで命の尊さを実体験できる機会として意義のある場を提供できた。					
課題	実施校を増やしていく方向ではあるが、2学期の特定の時期を希望する傾向があるのでその調整事項が課題である。							
今後の方向性	市内中学校での実施を促していく。							
40	事業名	お出かけ版お楽しみ広場事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	誰もが気軽に立ち寄れる商業施設の開放スペースに出向き、子育て親子が楽しめるイベントを行うことで、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育て不安や負担感の軽減を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	イベント開催回数	回	30	11	48	48	48(R6)
	②	参加者数	人	771	369	1668	1737	2000(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルスが収束してきたことで外出しやすい環境になったため、実施プログラムについては令和4年度に実施していたものよりも滞在時間が長く内容の濃いものへと変更した。その結果、参加者の増加につながった。					
課題	つながることを目的として活動しているが、新型コロナウイルスが収束しているとはいえ、親子同士の交流を図ることの難しさがあった。							
今後の方向性	引き続き子育て親子が楽しめるイベントを行い、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育てにかかる不安や負担感の軽減を図る。							

41	事業名	一時保育事業・出前型一時保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	<p>(スマイル) 一時的に保育が困難な乳幼児を預かることで、保護者の育児負担の軽減及び社会参加を促進させる。保護者の用事やリフレッシュ等の理由により、一時的に保育を行う。おにクルM2階の一時保育室「スマイル」にて月～土曜日午前9時から午後5時(第2第4月曜日(祝日の場合は火曜日)・12月29日～翌1月4日は除く)の間で30分単位で月4回まで利用することができる。</p> <p>(出前型一時) 庁内各課または事前登録済の市民団体が主催する講座・講演会や審議会・検討会を開催する時に、子育て中の市民が参加しやすくするため、一時保育室での保育や業務委託事業者から保育士等を派遣する保育を行い、参加者の乳幼児の一時的な保育を行う。</p>						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	一時保育事業(スマイル)登録者数	人	646	421	623	1121	750(R6)
	②	一時保育事業(スマイル)延べ利用数	人	1253	1175	1958	4851	13197(R6)
	③	出前型一時保育事業	件	375	443	580	551	質的充実
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>(一時保育事業) おにクル移転後定員を増やし対応しているため、利用希望者が増加している。</p> <p>(出前型一時保育事業) 子を持つ親への生涯学習等へ参加しやすい環境を整え、生涯学習を受ける機会を保證することができた。</p>					
課題	<p>(一時保育事業) 予約枠が不足する日がある。当日枠、イベント枠の調整を見極めていく。</p> <p>(出前型一時保育事業) 多くはないがいろいろなご意見があるため、業務改善を図っていく。</p>							
今後の方向性	<p>(一時保育事業) 当日枠の利用促進をしていく。</p> <p>(出前型一時保育事業) 民間事業者と情報の交換を行い、必要に応じて適正な事業遂行に向け助言を行うなど、保護者が希望する生涯学習を受けることができるよう保育環境を整えることに努める。</p>							
42	事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	地域において育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者が会員として登録し、相互扶助の精神に基づき行う援助活動を支援することで、仕事と育児の両立を図るとともに、地域で安心して子育てができる環境を整備する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	依頼会員	人	1192	1129	1132	1124	1200(R6)
	②	援助会員	人	278	248	237	242	250(R6)
	③	両方会員	人	222	196	176	156	200(R6)
	④	活動件数	件	2516	3096	3058	3091	3998(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>会員には学習会や交流会等の開催を行い、子育て情報や子育て技術の内容だけでなく、文化的な内容や、日ごろのストレスからのリフレッシュ方法等の講習の機会を提供できた。</p>					
課題	依頼会員数は毎年同程度であるが、両方会員数が減少傾向にある。							
今後の方向性	相互援助活動を円滑に行うため、援助会員の増加を図る必要がある。							
43	事業名	既存民間建築物耐震化啓発事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	居住政策課			
	再掲	-						
	事業内容	地震災害から市民の生命及び財産を守るため、民間の住宅や特定建築物の耐震化に対する市民意識の向上を図るため、情報提供や知識の普及を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	木造住宅耐震フォーラム	回	2	2	1	2	2(R6)
	②	出前講座	回	1	1	1	0	1(R6)
	③	建築相談会	回	5	5	5	4	6(R6)
	④	分譲共同住宅耐震化フォーラム	回	0	1	1	2	4(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>情報提供、知識の普及を行うことで、耐震化に対する市民意識が向上した。</p>					
課題	-							
今後の方向性	引き続き、情報提供や知識の普及に努める。							

44	事業名	消費者教育推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	学校教育関係者、消費者団体、市民団体、事業者など多様な消費者教育の推進主体者とともに、イベント、出前授業などのあらゆる機会を通じ、消費者の基本的な権利と責任、契約の重要性などを理解し、消費者被害の未然防止、社会や環境への影響にも配慮した物の選択、活用ができる消費者の育成を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広報誌・消費生活センターニュース等発行回数	回	25	22	22	19	12(R6)
	②	出前講座・くらしのセミナー等受講者数	人	315	1052	2594	2596	2300(R6)
	③	消費生活展等のイベント参加者数	人	117	2135	1821	2495	2200(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A コロナ禍による各種制限が解除され、対面型の出前講座や啓発イベントを再開するとともに、コロナ禍で導入したデジタル技術を活用した取組も併用することで、多くの市民に啓発することができた。また、スマホを入口としたトラブルが増加傾向にあることから、高齢者にはシニア向けスマホ教室を開催し、若年層には学校教育関係者等と連携を図り、中学生向けの講座を拡充するなど各世代への取組を行うことができた。					
課題	全国的にも認知症等の高齢者や障害のある方の消費生活相談件数が増加傾向にあるが、相談は本人以外から寄せられる場合が多いことから、各種関係機関と連携し、本人だけでなく、家族やその支援者等もターゲットとした消費者教育や啓発活動の取組が必要である。							
今後の方向性	消費者問題は生活全般に関わり、各世代への継続的な取組が必要となるが、ターゲットや状況に応じ、最も適切な手法を選択して市民の学習機会の確保に努める。							
45	事業名	教育課題調査研究事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	学校が直面する今日的教育課題(情報、理科、言語、特別支援等)について実践例の収集や教材開発などの調査研究を行い、研究成果をフォーラムや研究紀要で発信し、学校教育の充実及び、本市の教育の質の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	教育センターフォーラム	人	173	154	60	75	-
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 昨年度よりも参加者が増加し、研究成果を幅広く発信することができた。					
課題	最新の教育課題に応じた研究が必要である。							
今後の方向性	学校現場のニーズに沿った最新の教育課題について研究発信や情報提供を行うとともに、参加者数を増やすための工夫を行う。							
46	事業名	教育相談指導事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	教育に関する不安や悩みを抱えた幼児・児童・生徒、保護者や教員に対して、医師等の専門家や相談員による適切な指導・助言などの支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	幼児、児童生徒、保護者に対する相談	回	1391	1353	1453	1445	-
	②	専門医等による特別教育相談	件	37	37	37	37	-
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 教育相談では、相談者の不安や悩みに寄り添い、精神的な安定を図ることができた。特別教育相談では、専門医等による助言により相談者に対して適切な支援ができた。					
課題	相談者のニーズに応じた相談業務の質の維持・向上に取組んでいくことが必要である。							
今後の方向性	今後も相談支援の充実に向けた取組を継続していく。							

47	事業名	相馬芳枝科学賞実施事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	本市の科学教育振興のため、市内小中学生の自然科学・情報技術に関する自由研究を募集し、優れた作品の展示・表彰を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	展示作品数	点	13	136	139	187	-
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	受賞者とその保護者、学校関係者の参加による表彰式と応募作品すべての展示を行った。また、第10回を記念し、各校が提出できる作品数を増やしたことで、展示作品の増加につながった。					
A								
課題	市立中学生、私立小・中学生の参加者数が少ないため、広く情報提供・周知していく必要がある。							
今後の方向性	科学賞の意義などを発信し、児童生徒が意欲的に取り組み、探究心を育むことができるような情報提供・周知を行う。また、児童生徒の学びや励み、観覧者が科学に親しむ機会につながるような表彰式及び展示会、企画を実施する。							
48	事業名	エコポイント制度実施事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	環境基本計画の環境像である「心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち」に向け一歩踏み出すよう促すため、環境教育への参加、省エネ行動などの環境配慮行動を行った市民に対し、エコポイントを発行し、景品との交換等ができる制度を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	エコポイント付与回数	回	18778	35654	42717	77803	78000(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	エコポイント制度について、年間を通じてイベント等での周知機会を増やし、その際はいばライフアプリの案内を行い、アプリからの応募数が増えた。					
B								
課題	いばライフのアカウント登録者数の増加に伴いポイント付与数は増加しているが、ポイント制度への参加者増加につながっていない。ポイント制度に参加しやすい運用や、制度自体の広報を行う必要がある。 紙でポイントを集めている市民にアプリへの移行を促す取組と、新規の制度参加者を獲得する取組とを行う必要がある。							
今後の方向性	引き続き、業務の改善と利用者の増加を図り効果を検証する。アプリでのポイント取得の利便性を高めるため改善を図る。							
49	事業名	児童発達支援センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	児童発達支援センターとして、日常生活に必要な療育支援サービスや地域相談支援サービス等を提供し、こどもの健全な発達を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	通所支援利用児数	人	12414	11344	12010	12737	12800(R6)
	②	地域支援相談件数	件	2770	2519	2402	3121	3200(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	専門職の充実を図ったことから、園児の保護者への対応が充実した。					
B								
課題	支援が必要なこどもの把握を行う必要がある。							
今後の方向性	法改正の取り組みを注視し、次年度からの対応が可能となるよう情報の収集や国・府との連携を実施する。							

50	事業名	再生資源集団回収報奨金事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ減量に対する市民の意識向上を図るため、自主的に再生資源集団回収を行う地域住民団体等に対し、回収量の実績に応じて報奨金を支給する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	支給団体数	団体	423	427	431	428	430(R6)
	②	総回収量	t	6707	6624	6338	5819	6000(R6)
	③	報奨金額	千円	17548	17519	17229	16597	17500(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	市内のこども会、自治会、管理組合等に対して、集団回収の実施と報奨金支給団体登録を呼びかけ、地域における自主的な活動により、ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ問題に対する市民の意識向上につなげることができ、市民一人当たりの回収率は全国平均を上回っている。					
	B							
課題	ペーパーレス化に伴う古紙回収量の減少等により、回収量は減少している。また、自治会等組織の減少や弱体化の風潮が、今後の集団回収の実施についても影響を与える可能性がある。							
今後の方向性	引き続き、雑がみの分別について周知するなど、資源物の分別の徹底について啓発するとともに、報奨金制度について広く周知し、より多くの団体に集団回収に取り組んでもらうよう呼び掛けていく。							
51	事業名	生ごみ処理容器等支援事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	市内居住者で、容器等を市内に設置し維持管理することなどを要件に、生ごみを減量化・堆肥化する生ごみ処理容器等の購入に対する補助金を支給し、家庭から排出される生ごみ減量化の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式以外	基	16	30	54	22	30(R6)
	②	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式	基	81	90	61	83	100(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	オンライン申請の導入により申請者の利便性が向上したこともあり、電源を必要とする容器（生ごみ処理機）への補助金申請数が増加した。家庭から排出される生ごみを推計10t減量するとともに、ごみ減量化に対する市民の意識向上につなげることができた。					
	A							
課題	より多くの市民に利用してもらえるよう当制度を継続し、生ごみの減量化・堆肥化による家庭から出るごみの減量について意識啓発に努める必要がある。							
今後の方向性	引き続き、広報誌への定期的な掲載や、市民向けダンボールコンポスト講習会の実施などにより、周知・啓発に努める。							
52	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	街かどデイハウス利用者数	人	5897	4520	1924	2242	2,000(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	事業所が季節ごとのイベントを開催する等、新しい取り組みをした結果、参加者数が大きく増加した。					
	A							
課題	事業所スタッフの高齢化により、人材の確保が難しい状況である。							
今後の方向性	街かどデイハウスは、令和7年度以降に、すべてコミュニティデイハウスへ移行する予定である。コミュニティデイハウスへの移行後も各種趣味活動や講座を開催する。							

53	事業名	意思疎通支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	聴覚障害のある人とない人の意思疎通を図り、聴覚障害者の自立した生活や社会参加を支援する人材を育成することにより福祉の増進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	手話奉仕員養成講座	人	5	46	45	57	60(R6)
	②	手話奉仕員養成講座(ステップアップ講座)	人	0	11	24	18	50(R6)
	③	夏休みこども手話教室	人	0	10	30	37	30(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					テレビドラマの影響もあり、全体的に申し込みが多かった。ステップアップ講座の受講対象者は、手話奉仕員養成講座基礎の修了者であり令和4年度は、コロナの関係で基礎講座を開催しなかったため、参加申し込みが少なかった。
課題	ステップアップ講座は、受講生が少ない状況が続き、多くの方が受けやすいように受講基準を変更したが、コロナの影響で受講者が増えない状況であったが、令和6年度からは、コロナの影響がかなり少なくなるため、増加する見込みである。3講座ともに令和6年度は、応募数が定員数を上回るおそれがある。							
今後の方向性	手話講習会の開催を継続し、聴覚障害者への理解や手話の普及の促進に努める。							
54	事業名	障害福祉センターハートフル施設運営事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者の地域での自立した生活や社会参加の促進を図ることを目的に、指定管理者制度導入施設において、地域活動支援センターⅡ型、生活介護等を実施することにより、障害者福祉の増進に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ハートフル講座	回	40	56	119	128	128(R6)
	②	市民交流講座	回	30	30	68	64	64(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					○ハートフル講座/市内在住18歳以上障害者手帳保持者/延べ参加人数 卓球/144人、エアロビクス/128人、陶芸/32人、和太鼓/106人、絵画/61人、健康体操/262人、音を楽しもう74人 ○市民交流講座/18歳以上の市民/延べ参加人数 アフリカライブ/144人、ダンス講座/256人、音訳講習会/70人、手作り講座/16人、笑いヨガ講座/240人、煎茶道講座/96人、スポーツ吹き矢体験講座/12人
課題	交流講座での障害者以外の参加者を増やしていきたい。							
今後の方向性	利用者の意見を取り入れ、希望や状況に合わせて開催内容や回数の変更を検討していく。							
55	事業名	地域生活支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者が地域で自立した生活ができるよう、必要な情報の提供や生活用具等の援助、移動支援等の日常生活、社会生活を営むために必要な事業を行うことにより、その生活の安定と向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	移動支援従業者養成研修	人	-	-	23	22	45(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					令和5年度は全身性障害課程12名、知的障害課程6名、精神障害課程4名が研修を修了した。受講者数は定員の半数程度となった。
課題	各コース定員が15名であるが、全身性障害課程は概ね定員に近い人数が集まったが、知的障害・精神障害課程は人数が集まっていない。							
今後の方向性	広報での市民への周知に加え、障害福祉サービス事業所にも広く周知を行い、受講生を募ってきたい。また、来年度以降については講座の開催方法の見直しを検討していきたい。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)自己を高めるための学び直しへの支援
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人が学び直しのできる機会を充実させるため、大学や民間事業者（企業）との連携を強化し、学習ニーズを踏まえた生涯学習の機会を提供します。 ● すべての市民のキャリア向上を図り、今後の職業に活かすことができる多様な学習機会の提供や支援方法を検討します。 ● めまぐるしく変化する社会情勢に対応できるよう、市民が社会を担う力を高め、自己を高めることのできる生涯学習の機会を提供します。

◇ 事業内容

56	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	セミナー 3回参加者数（延人数）	人	50	61	37	52	75(R6)
	②	人権問題企業研修会参加者数（延人数）	人	0	14	28	20	30(R6)
	③	啓発リーフレット（3回発行）の送付数（延数）	社	3300	3300	3300	3300	3300(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 障害者や高齢者の雇用に関する啓発リーフレットを関係機関の協力を得ながら作成し、雇用を促進するための国の助成金等について、市内事業所3,300社へ周知を図ることができた。					
課題	三島地域の4市1町が共同し、各市町で在勤・在住者等を対象とした労働問題や労使関係、労働法制等に関する体系的な理解と認識を促し、労働関係の安定や誰もが働きやすい活力ある地域づくりに資することを目的としたセミナーを実施しているが、参加人数が少なくなってきたことから、事業目的を果たすための共同事業としてセミナーを継続していくのかも含めて、協議していく必要がある。							
今後の方向性	令和6年度から「働く人・雇用する人のためのお役立ちセミナー」と題し、セミナーの実施目的は変わらないが、労働法制以外にも時代に応じた、理解しやすい内容で、勤労者・事業主に対して理解と認識を促すセミナー等を実施することとした。今後の参加者の動向を見ながら、共同事業の実施内容等を検討していく必要がある。							
57	事業名	【再掲】雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	就職支援セミナー受講者数	人	35	41	35	57	50(R6)
	②	技能講習受講者数	人	2	1	0	2	5(R6)
	③	障害者向けパソコン講座	人	5	5	3	6	-
	④	自営型在宅ワークセミナー受講者数	人	-	18	23	12	-
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 就職支援セミナーについて、実施回数を削減したが、新型コロナウイルス5類移行や、受講者アンケート等によりニーズを捉えた内容で実施し、受講者には概ね満足いただけた。在宅ワークセミナーの実践編では、今回初めて在宅ワークの1職種であるWEBライティングを取り上げて実践し、日数的には初歩的な内容のみの講義となったが、受講者には概ね満足いただくことができた。					
課題	自営型在宅ワークセミナーは職種も求められる知識も非常に多く、特に実践編を3日実施に実務ができるレベルの知識等を習得することは困難な状況にあるため、実施内容を精査する必要がある。							
今後の方向性	実践的内容を学ぶことができる在宅ワークセミナーについては、多数の民間企業でオンライン実施を多数されていることから、現在就職支援セミナーの一環として実施している入門編について、現在より充実させて実施する。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3) ICTを活用した学びの場の提供
		-
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットを利用した学習が増えていることに伴い、いつでも、どこでも学習できるよう、スマートフォンやパソコン等を活用した学習機会の提供に努めるとともに、公共施設でのインターネットの環境整備を進めていきます。また、電子通信機器に不慣れな方を対象にした講習会などの実施に取り組むとともに、インターネットを利用しない市民に対しても配慮に努めます。 ● 超高齢社会を見据え、大学や民間事業者（企業や病院など）で実施している講座等を、インターネットを活用し、市民に公開することのできる環境づくりを検討します。

◇ 事業内容

58	事業名	生涯学習センターインターネット環境整備事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	-						
	事業内容	インターネット環境が完備できていない方が、センターに設置しているパソコンを利用して資料検索や生涯学習に関する情報を収集することができるよう、ネットワーク環境を管理する。また、利用者が持つICT端末からインターネット上の学習コンテンツ等が利用できるようにするため、センター						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	情報コーナー利用件数	件	3790	2080	3545	1854	3600(R6)
	②	館内フリーWi-Fi接続数	件	-	8297	22531	15897	23000(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	令和5年度は空調改修工事により約3カ月間休館したため、情報コーナーや館内フリーWi-Fiの利用者が減少したが、引き続き、生涯学習センター内でいつでもどこでも学べる環境を提供した。					
		B						
	課題	Wi-Fiの接続方法が分からず、利用できない市民の方がいるため、デジタルデバイドの解消に向けた取組が必要である。						
今後の方向性	引き続き、ICT関連講座において、デジタルデバイス解消に向けた講座等を開催する。							
59	事業名	生涯学習センターICT講座事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	-						
	事業内容	ICT機器を利用した学習方法の増加により、ICT端末を活用した講座を実施する。また場所や時間に捉われない学習ができるよう、オンデマンド配信等を活用した講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ICT関連講座開催数	件	119	154	177	128	135(R6)
	②	ICT関連講座延人数	人	1476	1589	2001	1614	1700(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	ICTに関心をもっていただくため、ICTに馴染みのない方やアプリの内容別に講座を開催したことで、学習したい人のニーズにあった講座を開催した。					
		B						
	課題	ICTに馴染みのない方が一定数いるため、ICTについての理解を深めていただく学習の場の提供が必要である。						
今後の方向性	引き続き、ICTに関心をもっていただくため、ICTに馴染みのない方を対象にした講座を実施する。							

60	事業名	広報誌等発行业務						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市民に市政やまちの情報等を提供するため、「広報いばらき」を発行する。 また、転入者等に市政の概要や市の魅力をわかりやすく紹介するため、市民ハンドブック等の広報刊行物を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広報誌発行部数	冊	1615500	1632200	1648400	1666300	1670000(R6)
	②	市民ハンドブック	冊	8000	8000	8000	8000	8000(R6)
	③	市勢要覧	冊	0	3000	0	0	3000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 広報誌に毎月多くの講座講習の記事を掲載したほか、市民ハンドブックに生涯学習に関連する施設情報等を掲載し、市民に生涯学習に係る情報提供を行った。					
課題	デジタル化の進展等の社会情勢の変化に対応し、必要な情報が探しやすく、読みやすい広報誌へと変革を図る必要がある。							
今後の方向性	広報誌の各記事に記載されたページIDで検索することで、各記事の詳細情報に簡単にアクセスできるページID検索機能を導入し、広報誌と市HPの連携強化を図る。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実
		②電子媒体等を含めた多様な媒体を活用した情報提供の推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● メールマガジン、SNS、市公式総合アプリ（いばライフ）などの電子媒体を活用し、いつでも、どこでも、新たな生涯学習の情報を入手できる環境整備を進めます。 ● 電子媒体を活用していない市民に対しても、情報誌、広報誌、チラシ等を活用し、講座やイベント等の生涯学習情報を提供します。また、掲載方法を工夫し、対象に応じた情報提供を行います。

◇ 事業内容

61	事業名	情報ルーム管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	市政に関する情報の積極的な提供を図るため、各種行政資料や市政刊行物等を情報ルームに設置し、市民の閲覧に供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	閲覧資料、パンフレット設置数	種類	613	578	522	294	-
	②	有償刊行物販売数	部	356	304	259	54	-
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	公共施設の機能再配置にともない情報ルームを移設をするにあたり、各課における市ホームページへの資料の掲載の推進と合わせて、設置する資料の精査を行った。また、情報ルーム内に、市民等が利用できる市ホームページ閲覧用パソコンを設置し、市民等の利便性の向上を図った。					
課題	-							
今後の方向性	引続き、市政に関する情報の積極的な提供を図る。							
62	事業名	生涯学習センター情報提供等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「Next Stage」等を通じて、様々な生涯学習関連情報の提供を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯学習情報誌発行	冊	12900	12900	12900	12900	12900(R6)
	②	Next Stage情報掲載数	件	345	432	587	582	590(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	令和5年度は生涯学習センターが空調改修工事を3か月間、休館したことに伴い、生涯学習センター主催事業数が減少したものの、新規講座の実施や事業実施の工夫等により、令和4年度とおおむね横ばいの掲載数となった。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めた。					
課題	引き続き、生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、更なる生涯学習情報を発信し、市民に周知をする必要がある。また、ホームページ等のインターネットを活用し、生涯学習情報を発信する必要がある。							
今後の方向性	関係課及び団体等の生涯学習情報を収集及び発信するとともに、情報誌発行までに掲載できなかった講座やイベントについては、追加情報として収集し、インターネット等を活用して情報発信を行う。							

63	事業名	パブリシティ活動事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市内外に向け、市政情報の周知や市の魅力をPRするため、新聞やテレビ等のマスメディアを活用し情報を発信する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	新聞社等のマスメディアへの記事提供数	件	141	139	168	152	150(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	記者等に報道提供をすることで、マスメディアを活用し情報を発信できた。					
	A							
課題	-							
今後の方向性	今後も市政情報や地域情報について、積極的な報道提供に努める。							
64	事業名	ホームページ・SNS運営事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	最新の市政情報を広く市民に素早く提供するため、市ホームページの適切な管理・運営を行うとともに、だれもが利用しやすいようにコンテンツの充実を図る。また、SNSの持つ双方向性を活かした積極的な情報発信を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ホームページアクセスユーザー数	人	約3,354,000	約3,836,000	約3,288,000	約3,036,000	3200000(R6)
	②	SNS投稿件数	件	447	498	469	403	450(R6)
	③	Facebook及びX(旧Twitter)フォロー合計数	人	16509	18077	18744	19337	20000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	ホームページにID検索機能を追加し、検索しやすさの向上を図った。					
	A							
課題	-							
今後の方向性	誰もが必要な情報を探しやすく、わかりやすいホームページ運営を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		<p>すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。</p> <p>市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。</p> <p>また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。</p> <p>生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。</p>

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域の公民館やコミュニティセンター等の生涯学習関連施設において、市民が身近な場所で、自由な時間帯に、主体的に学習活動を行うことができる環境の確保や、持続可能な社会づくりの担い手を育むための学習活動を推進します。 ● 生涯学習センターの運営のあり方について、生涯学習拠点施設の機能がさらに充実するよう、指定管理の導入も視野に入れ、検討を行います。

◇ 事業内容

65	事業名	市立ギャラリー運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	美術作品を展示することにより市民の美術に関する創作及び鑑賞活動を促進し、美術を通じて市民文化の振興を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	入場者数	人	8748	14432	18163	17598	16500(R6)
	②	市立ギャラリー稼働率	%	44	65	82	75	70(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>B</p> <p>新型コロナウイルスの影響が落ち着いた令和4年度と比較し、入場者数はほぼ横ばいの結果となりました。目標の水準には一定達しているものの、一年を通じた安定的な利用という点では改善できる余地がまだあるように見受けられます。</p>					
課題	夏、冬といった動員の減少する時期の利用を推進していく必要があります。							
今後の方向性	例年実施している事業の時期の調整など、需要の時期の利用を引き出すような方法を検討します。							

66	事業名	スポーツ施設管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、市民が安全に安心して快適にスポーツ活動ができるよう、市民体育館・市民プール及び運動広場等の適切な管理・運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	グラウンド利用者数（フットサル場を含む）	人	329585	326157	433507	423060	500000(R6)
	②	テニスコート利用者数	人	204033	173762	239891	231826	250000(R6)
	③	市民体育館（4館）利用者数	人	253185	237442	305701	333774	350000(R6)
	④	市民プール（夏期除く）利用者数	人	25986	29213	41321	38063	42000(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					市内スポーツ施設の効率的・効果的な運用を行うことができた。
課題	市内スポーツ施設が全般的に老朽化しており、多額の修繕費や更新費が発生している。							
今後の方向性	今後、市民のスポーツ活動の動向やニーズを勘案して、スポーツ施設の適正化の検討を進める。							
67	事業名	資料情報収集提供事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に、図書、視聴覚資料、データベース等記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、市民の利用に提供する。また読書案内やレファレンス・サービス（調べもの支援）などで、利用者が必要な資料を結びつける。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	蔵書冊数	冊	1258319	1263106	1266627	1268932	1260000(R6)
	②	貸出点数	点	3063456	3236933	3570988	3476804	3500000(R6)
	③	録音図書・点字図書所蔵状況	タイトル	2499	2555	2560	2667	2700(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					中条図書館移転準備の休館のため、貸出点数は減少したが、おにクルぶつくばー開館後は新規利用者も増え、利用は増加傾向にある。おにクルぶつくばーにおいて電子雑誌等の導入や施設各フロアに合わせた分野の図書と雑誌の拡充を行い、新たな資料との出会いを生み出した。いばらき市電子図書館に、イベントで作成したデジタル絵本や行政資料を追加で公開し、電子資料の充実につながった。また、学校法人追手門学院とそれぞれが独自で作成した電子書籍を相互に公開できる連携協定を締結し、電子資料のより一層の充実に向けた取組を進めることができた。
課題	今後さらにDX化に対応した資料・情報の収集・提供が必要である。 課題解決の場としての図書館機能の周知を図る必要がある。 障害の有無や日本語を母語とするかにかかわらず、誰もが読書に親しめる環境の整備・充実が社会的に求められている。							
今後の方向性	誰もが資料・情報にアクセスできるよう、継続して幅広い資料情報の提供及びレファレンスサービス等の充実を努める。他課と連携し、図書館サービスとして提供しているビジネス支援サービス等の周知を行う。 バリアフリーコーナーを設置し、大活字本(大きな文字で記載された本)、L Lブック(やさしい言葉でわかりやすく書かれた本)を集めて配架する。また、読書補助アイテム（ルーペ、拡大読書機、リーディングトラッカー等）等を設置する。							
68	事業名	ローズWAMにおける男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現に向けて、市民と協働して、各種事業の実施や情報収集及び提供等、センターの運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ネットワークギャラリー図書貸出冊数	冊	3702	4889	5073	5453	5500(R6)
	②	貸館利用率	%	44	48.5	47.2	48.3	50(R6)
	③	貸室利用者数	人	30826	44669	65081	72451	75000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					新型コロナウイルス感染症感染防止のための利用制限を緩和したことにより来館者が増加したことに加え、講演会や主催行事の開催にあわせて図書の特集展示を行うなど、図書の利活用を工夫したことにより貸出冊数も増加している。
課題	新型コロナウイルス感染症感染防止のための利用制限を緩和したことにより来館者が増加したことに伴い、図書の貸出冊数も増加している。男女共同参画に関する学習をする人を支援するため、図書の有効活用について更に検討が必要である。							
今後の方向性	図書以外の媒体の活用も含めて、より効果的な情報提供や学習活動の支援について検討する。							

69	事業名	【再掲】いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	社会福祉法及び基本的人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	施設利用者数	人	57664	63988	90423	93233	80000(R6)
	②	センターニュース発行部数	部	85000	87000	89400	99100	90000(R6)
	③	講座等参加者数	人	2442	5407	7705	6786	5000(R6)
	④	まつり参加者数	人	616	268	1509	2159	1500(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	まつり等地域交流行事を開催し、コロナ禍以前に近い人数の参加を引き続き得られた。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行なった。					
B								
課題	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							
70	事業名	【再掲】茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	2	3	6	7	8(R6)
	②	人権相談	人	54	62	30	35	80(R6)
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	3	4	8(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	講演会では、会場入場とオンライン配信を併用する手法や、人材養成講座では、おにクルの開館にあわせたテーマ設定など工夫を凝らし、参加者の増につながった。					
B								
課題	人権センターの事業内容等について、効果的な手法の検討が必要である。							
今後の方向性	引き続き、効果的な啓発を図るため、人権センターとの連携をすすめていく。							
71	事業名	上中条青少年センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の情操を養い、教養の向上及び健康の増進を図るとともに、自主的、組織的な青少年活動を助長することによって、青少年及び青少年団体の健全な育成及び人権文化の高揚を図るため、体験活動や文化的交流行事を実施するとともに、自主的・組織的な青少年活動を						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	利用者数	人	26701	29643	41236	121960	130,000(R6)
	②	貸室稼働率	%	51.8	56.3	60.6	55.9	60(R6)
	③	センター主催事業参加人数	人	319	855	871	1124	1,200(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	センター主催事業については、工作を中心に実施し、多彩な体験活動の機会を提供することができた。 ふれあいコンサート等については、HPや広報を活用することで、多くの子どもたちに文化的な学びを提供することができた。					
B								
課題	子どもに関心を持ってもらえるセミナー等を企画・検討するため、引き続き大学生や関係団体と連携を図る。							
今後の方向性	青少年にかかわる社会情勢の変化に応じ、事業の企画や効果を見直しながら、青少年の体験活動の充実を図る。							

【基本目標】

2 ひとつづくり

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習活動団体等への支援
3	取組内容	● 生涯学習活動団体や「社会教育の推進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」などの様々な活動を行っているNPO法人等に対し、市のイベント情報の提供や、生涯学習活動団体が情報を発信する機会の提供に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	青少年活動・育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	子ども会をはじめとした青少年団体等や、これらの青少年を育成する組織が活発な活動を展開するための情報や活動機会の提供に努め、青少年教育活動の推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	子ども会結成数	子ども会	189	172	158	137	137(R6)
	②	子ども会加入率	%	30.8	26.4	22.4	18.6	18.6(R6)
	③	子ども会サポーター登録者数	人	38	41	44	26	30(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 子ども会数については、茨木市子ども会育成連絡協議会の協力で「レクリエーションのつどい」を実施し、未加入の子ども会加入のきっかけとなったが、地域の実情により、子ども会を継続することが困難な子ども会があるため、子ども会数は減少した。					
課題	子ども会結成数、子ども会加入率ともに減少傾向にある。							
今後の方向性	育成者の負担軽減等を図るとともに、子ども会加入のきっかけとなる事業を茨木市子ども会育成連絡協議会と連携し、提供していく。							
2	事業名	【再掲】茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	見学会・研修会	回	1	1	2	3	2(R6)
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	402	407	400	401	400(R6)
	③	推進員ニュース配布数	部	3054	3228	3273	3722	3300(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 委嘱の際には茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、隔月での推進員ニュース発行やダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図っている。2年ごとの委嘱の際には、市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。					
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援 -
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センターにおけるきらめき講座等の講座受講後の継続的な学習や活動を支援します。 ● 学びや体験の成果を活かし、指導者として活躍する機会を提供できるよう、生涯学習センターボランティア講師による講座や、放課後子ども教室、公民館・コミュニティセンター等の講師など、出番づくりを支援します。 ● 生涯学習センターにおいて、市民活動センターやボランティアセンターなどの関係機関と連携を図り、ボランティア活動の支援に努めます。

◇ 事業内容

3	事業名	生涯学習参画事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	個人や団体が培った知識・経験を広く還元できる場を提供し、学習成果を活かした幅広いジャンルの学習参画機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ボランティア講座実施件数	件	7	22	16	27	27(R6)
	②	ランチタイムコンサート開催数	件	29	44	49	35	45(R6)
	③	きらめきフェスタ参加者数	人	中止	1728	2889	3116	3200(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	令和5年度は引き続き、個人等が培った学びや体験等の成果を発表や指導者として活躍する機会として、ボランティア講師による講座の実施や公募で演奏者等を募るランチタイムコンサートを実施したが、生涯学習センターが空調改修工事を3か月間、休館したことに伴い、令和4年度よりも開催数が減少傾向にあります。しかし、きらめきフェスタは様々な団体等と連携したことにより、令和4年度よりも参加者数が増加した。					
課題	引き続き、個人や団体が日頃培った知識や経験を還元できる場を提供し、学習参画する機会を提供する必要がある。							
今後の方向性	新たな個人講師等を発掘するために、ボランティア講師等の募集について情報発信を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3)地域人材の発掘と活用
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会で生涯学習活動を行っている方を、地域人材として発掘するとともに、その地域人材が地域社会で生涯学習活動を推進していくことができるよう、指導者として育成、養成することのできる仕組みづくりを検討します。 ● 障害のある人や高齢者、外国人など、すべての人々が生涯学習活動を実施することができるよう、支援者の育成や学びの機会の提供を検討します。

◇ 事業内容

4	事業名	スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	スポーツ推進課	
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	29	30	92	29	100(R6)
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	51	41	19	47	50(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。					
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実を図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。 また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
5	事業名	高齢者関係団体育成・支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部			(課名)	地域福祉課	
	再掲	-						
	事業内容	高齢者のために事業を展開する様々な団体を育成・支援することにより、高齢者の多様なニーズに対応し、充実した生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	老人クラブ会員数	人	6540	6278	6081	5617	5700(R6)
	②	はつらつバス使用実績	件	0	29	63	89	122(R6)
	③	シルバー人材センター会員数	人	1533	1567	1574	1660	1690(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	C コロナ禍以後、利用が減少していたはつらつバス供与事業について、使用数は回復傾向にあるが依然として少なく、高齢化によって利用が難しくなっているクラブがあるなど、老人クラブの会員数は毎年減少の一途をたどっている。					
課題	高齢者世代になっても働き続ける人が増加するなどの社会背景の変化もあり、60歳代をはじめ老人クラブ加入者が著しく減少傾向にある。各単位老人クラブを中心に会員増強に努めているが、担い手の高齢化、その他会員数の自然減少により、思うように効果が得られていない。担い手の不足により解散となるクラブも増えている。また、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事の高齢化が進む一方で、新たな担い手の育成がうまくいっていない。							
今後の方向性	今後どうすれば老人クラブとその活動に興味を持ってもらえるか引き続き検討していく。また、今後も事業を継続するために、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事や老人クラブの会長等、後継者の育成に力を入れていく。							

6	事業名	社会教育関係団体育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	社会教育関係団体の活動を促進し、社会教育の振興を図る。社会教育関係団体等を対象とした後援等により支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	後援件数	件	35	38	60	71	60(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					
		団体が行う事業への後援については、昨年度と比較して増加するなど、社会教育活動の支援につなげることができた。						
課題	コロナ前の水準に戻りつつある社会教育活動への支援。							
今後の方向性	後援事務の適切な執行により、社会教育関係団体等の活動支援を図る。							
7	事業名	茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	2 ひとつり、(1)生涯学習活動団体等への支援						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	見学会・研修会	回	1	1	2	3	2(R6)
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	402	407	400	401	400(R6)
	③	推進員ニュース配布数	部	3054	3228	3273	3722	3300(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					
		委嘱の際には茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、隔月での推進員ニュース発行やダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図っている。2年ごとの委嘱の際には、市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。						
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							

【基本目標】

3 まちづくり

基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)地域社会の教育力の活用
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 各小学校において、地域住民の参画を得て放課後子ども教室を実施し、遊びや学習、体験活動の機会を通して子どもたちに安全・安心な居場所の提供に努めます。また、大学生等に子どもと関わる機会を提供するため、放課後子ども教室でのボランティア体験の充実に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	学童保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	学童保育課			
	再掲	-						
	事業内容	保護者が子育てと就労を両立できるよう、小学校に通う児童に安心して利用できる放課後等の居場所を提供する。また、放課後子ども教室と連携することにより、児童が多様な体験・活動を行うことができ、地域社会全体で児童の健全育成を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	開設保育室数(クラス数)	室	69	70	71	74	80(R6)
	②	待機児童数(一斉受付申請分)	人	0	0	0	0	0(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 各小学校と学童保育室として利用するための場所の確保について調整を行い、その結果、一斉受付における待機児童を発生させることはなかった。また、保護者の長期休業期間のみの保育ニーズに応えるために、夏季休業期間預かり事業を引き続き実施することができた。					
課題	待機児童を発生させないために場所及び指導員の確保が必要である。							
今後の方向性	学童保育室の新築や増改築等の実施に加え、小学校や教育委員会と調整し、余裕教室等の借用により教室を確保する。また、民間事業者に対する補助を実施し、民間事業者も含めた場所の確保を行い、待機児童が発生しないよう対策を図る。							
2	事業名	放課後子ども教室推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	放課後等にこどもたちの安全で健やかな居場所を確保するため、地域住民の参画を得て、こどもたちと諸活動に取組み、地域社会全体で地域のこどもたちを見守り育むことができるよう、啓発と活動の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施校数	校	-	18	32	32	32(R6)
	②	実施日数	日	-	200	1167	2066	2,500(R6)
	③	放課後子ども教室への児童登録率	%	-	36.6	49.6	54	65(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B コロナ禍の影響で、令和4年度は中止期間があったが、令和5年度は通年実施することができ、安心・安全な居場所を提供することができた。また、スタッフ向けの研修として、スタッフ見学会を行い、実施における工夫を共有することができた。					
課題	スタッフの高齢化が進んでおり、新たな人材確保の手法を検討していく必要がある。							
今後の方向性	引き続き、安全・安心な居場所の提供に努める。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進
3	取組内容	● 地域社会における生涯学習に関する様々な資源を有効に活用し、学校・家庭・地域組織・団体がそれぞれの役割を果たしながら互いに連携し、地域社会のコミュニティづくりに努めます。

◇ 事業内容

3	事業名	市立幼稚園子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して保護者同士の交流を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	園庭開放参加人数	人	1287	1104	1983	2459	2000(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して保護者同士の交流を図り、子育て支援を図ることができた。また、電話だけでなくオンラインでの予約を可能としたり、ホームページやInstagram等に空き状況等を掲載するなど、より参加しやすく身近な場となるようICTを活用し、参加者数の増加に繋げることができた。					
課題	園庭開放事業の周知を積極的に実施する必要がある。							
今後の方向性	園庭開放時に相談が多いことから、引き続き園庭開放を実施する。							
4	事業名	市立保育所子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進し、在宅の親子を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ともだちひろば（園庭開放）	件	117	114	197	233	200(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	園庭開放により、こどもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることが出来た。また、新型コロナウイルス感染症対策を緩和し、予約無での参加を可能とするなど利用者の利便性を図った。					
課題	園庭開放事業の周知を積極的に実施する必要がある。							
今後の方向性	園庭開放時に相談が多いことから、引き続き園庭開放を実施する。							

5	事業名	利用者支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき多様な教育、保育施設、地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるような必要な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	基本型	件	480	329	703	1170	1170(R6)
	②	母子保健型	件	214	123	168	156	-
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>(基本型) 今まで行っていた出張相談や、随時相談に加え、こども支援センターでの窓口相談や4か月児健診、わっくるでの相談対応など、新たに相談の場を設けることができた。</p> <p>(母子保健型) 専任保健師・助産師が、多胎妊婦等へ妊娠届出時面談後も相談助言を行うとともに、基本型と連携し、子育て支援サービスにつなげることができた。</p>					
課題	<p>(基本型) 総合案内ではあるが、どこまでの情報を伝えるのか。保健福祉センターとの連携を行っているが、地区によって差がある。</p> <p>(母子保健型) 令和6年度からの制度改正により、こども家庭センター型として、母子保健機能と児童福祉機能が連携・協働し、すべての妊産婦及び子どもとその家庭等への切れ目のない支援や虐待予防などに向けた支援体制の充実が必要である。</p>							
今後の方向性	(基本型) 地域との連携のため、つどいの広場等に出向いているが、他の事業との調整を行い、積極的に出向けるようにしていきたい。							
6	事業名	子育て支援ネットワーク事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	4か月から1歳の誕生日までの乳児と保護者を地域の中で交流できる場を提供し、保護者同士のつながりのきっかけ作りと情報交流を促す。また、子育てに関わる機関・団体・民生委員・児童委員等の支援者と、子育て中の保護者団体等の当事者が構成する連絡会を開催し、子育てに係る情報交換や交流、イベントを実施し、各団体等の特色をお互いに認め合いながら、連携して子育て支援を行うとともに、地域での子育て力の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	あかちゃんあそび	人	452	463	555	608	650(R6)
	②	子育て支援団体連絡会	回	0	0	10	10	20(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>対面では子育て支援総合センター・白川公民館・蔵垣内会館で15回開催した。オンラインでは毎月実施した。対面は予約で埋まることもあったが、公民館・会館では定員に達しない時もあった。ふれあいあそびを中心に40分間の内容を実施。親子でふれあいあそびを楽しんでもらえたが、保護者同士の交流が少なかった。</p>					
課題	子育て支援総合センターはすぐ予約が埋まった。保護者同士の交流する時間をもってもらおう。							
今後の方向性	こども支援センターの移転に伴い、あかちゃんの日をわっくるで実施するにあたり、センターの実施分をあかちゃんの日に組み込ませ、予約制はせず自由参加とし、保護者の交流も充分に取ってもらおう。							
7	事業名	地域子育て支援拠点事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	就学前児童とその保護者が気軽に集える場を設置し、地域の中で安心して子育て・子育てができる環境を整備するとともに、公私立保育所(園)に地域子育て支援センターを設置し、子育て世帯に対して専門的な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広場開設数	か所	20	20	20	21	22(R6)
	②	広場来所者数	人	47109	43975	68175	87415	91803(R6)
	③	地域子育て支援センター開設数	か所	5	5	5	5	5(R6)
	④	地域子育て支援センター来所者数	人	7297	6615	10401	13998	14000(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	<p>昨年度より対面での活動を増やすことができ、大幅に利用人数が増えた。</p>					
課題	対象世帯数に対して利用率が低い傾向にある。							
今後の方向性	引き続き、就学前の子育て世帯の孤立化を防ぐため、対面での交流や相談、情報提供の場をつくるよう努め、SNS等を活用し広く周知する。							

8	事業名	青少年健全育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年健全育成運動を推進し、より一層の青少年育成を図るために青少年問題協議会が青少年育成の方針を樹立し、関係機関・団体と有機的に連携をとりながら、青少年育成のための諸事業の実施及び問題行動の防止等に努める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	52	51	55	64	70(R6)
	②	青少年が行事の一部を担当した割合	%	75	74	77	79	75(R6)
	③	青少年による青少年のためのイベントに参加した高校生・大	人	-	91	141	116	100(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 「ほっとけん！アワード」、「青少年による青少年のためのイベント」、青少年指導者向けの研修等の事業を実施し、地域での大人とこどもの顔の見える関係づくりや、イベントに参加したこども・生徒・学生の異年齢の交流や自己有用感を感じる機会の提供、青少年指導者の育成などが推進できた。					
課題	長らく続いたコロナ禍の影響で青少年育成行事が中止・縮小している。 SNS等に起因するトラブルに青少年が巻き込まれる可能性がある。							
今後の方向性	地域での取組を促進する方策を検討するとともに、異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供を図っていく。 SNS等のトラブルから青少年を保護するため、最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて周知・啓発する。							
9	事業名	家庭教育支援事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習のきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習のきっかけづくりの推進						
	事業内容	家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講習・講座の開設数	回	91	112	135	142	48(R6)
	②	講習・講座の参加者数	人	1054	1208	1506	1523	480(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 家庭教育学級については、各主体の積極的な取り組みの結果、参加者数が微増した。					
課題	家庭教育学級参加者数の減少や親学びサポーターのなり手が不足している。							
今後の方向性	ICTの活用や関係団体との連携等を進めながら、社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、新たな実施手法を検討していく。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実
3	取組内容	● 各地域が抱える課題や問題を地域社会で解決することができるよう、健康、人権、男女共同参画、家庭・家族、消費者問題、交通、科学技術、情報化、雇用等の課題に関する講座の充実に努めます。

◇ 事業内容

10	事業名	【再掲】生涯学習センター出前講座実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	115	120(R6)
	②	出前講座実施件数	件	242	132	272	795	800(R6)
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	61662	62000(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、出前講座を実施した。また令和5年度は、令和4年度と比較すると実施件数、受講者数ともに大幅に増加しており、コロナ前の数値に近づいてきており、市の多様な事業等について学ぶ機会が提供できている。					
課題	引き続き、市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある							
今後の方向性	引き続き、各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							
11	事業名	母子・父子福祉事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択(進学に要する費用や奨学金など)に関する各種相談に応じます。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	継続参加率	%	50	56	50	50	70(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施した。中学校の最初の家庭訪問後に各学校を周って、利用中の生徒や案内したい生徒の情報交換を校長先生等と行った。また、児童扶養手当現況時には対象となりそうな生徒の保護者に直接案内をするなど、必要な生徒に本事業がつかがるよう事業周知を行った。					
課題	利用の継続が難しい生徒もあり、支援が必要な生徒に繋がりにくい。また、支援が必要な家庭に直接的な情報提供と手続きの支援が必要である。今後とも対象世帯への利用促進を進める。							
今後の方向性	未登録の対象生徒やその家族に対し、継続的な利用勧奨を実施する。							

12	事業名	【再掲】ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	女性相談件数	件	2084	2113	2038	1964	2000(R6)
	②	特別相談件数	件	155	110	110	99	130(R6)
	③	相談関係研修等参加者数	人	25	20	35	33	35(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					
	A	複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。						
課題	複雑化する相談に対応して市民生活をサポートするため、相談員の知識・技術の向上が必要である。							
今後の方向性	相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想されるなか、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されたことに伴い、さらに関係部署や関係機関との連携を推進する必要がある。							
13	事業名	地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民協働企画講座開催回数	回	9	83	104	101	110(R6)
	②	市民協働企画参加人数	人	281	1559	1774	1782	1800(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					
	A	ローズWAM 1階の喫茶スペースを活用しての「WAMcafe」や講座やワークショップの企画を募集する「WAMチャレンジ企画」といった市民が自ら企画した男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。						
課題	喫茶スペースについては、男女共同参画に関する事業や公益活動のために定期的に利用していただくとともに、新たな利用者にも企画を実施していただき、新たな視点を取り入れる必要がある。							
今後の方向性	喫茶スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							
14	事業名	いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 学びづくりへの取組、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	社会福祉法及び基本的人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	施設利用者数	人	57664	63988	90423	93233	80000(R6)
	②	センターニュース発行部数	部	85000	87000	89400	99100	90000(R6)
	③	講座等参加者数	人	2442	5407	7705	6786	5000(R6)
	④	まつり参加者数	人	616	268	1509	2159	1500(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					
	B	まつり等地域交流行事を開催し、コロナ禍以前に近い人数の参加を引き続き得られた。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行なった。						
課題	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							

15	事業名	食育推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	-						
	事業内容	市民が規則正しく、栄養バランスのとれた食事をする事で、健康な身体を維持するとともに、「食」を通じて、食卓を囲む人同士のコミュニケーションを豊かにし、こころの充実が図れる環境づくりを目指す。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	食育SAT（健康づくりセミナー）	回	9	9	14	16	14(R6)
	②	食育出前講座	回	3	1	10	19	10(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	食育SAT（健康づくりセミナー）は開催回数を増やし、目標値を上回った。出前講座は中学校や市民団体からの依頼が増えたことから、目標値を上回った。					
課題	健康づくりセミナーは若年健診時に実施しているため、若年世代に限定した講座になるが、出前講座ではさまざまな団体から依頼があるため、それぞれのライフステージに合わせた学習機会の提供や健康づくりの啓発を行うことが課題である。							
今後の方向性	より多くの市民の食育を推進するため、出前講座の実施回数の増加や内容の充実を図る。 また、さまざまなライフステージに合わせた健康づくりの啓発を行うため、多様な団体からなる茨木市食育推進ネットワークと連携し、食育イベント等を実施し、食環境整備に努める。							
16	事業名	健康増進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	-						
	事業内容	健康増進法や「健康いばらき21・食育推進計画(第3次)」に基づき、市民自らの生涯にわたる健康づくりを推進する。 自殺対策基本法や「茨木市のちを支える自殺対策計画」に基づき自殺予防を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	健康教育（健康づくりセミナー）	回	9	9	16	16	14(R6)
	②	歯科疾患健康教育（出前講座）	回	8	13	16	21	10(R5)
	③	ゲートキーパー養成講座	回	1	5	10	11	5(R5)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	講座開催数は、全てにおいて目標値に到達している。成果については、事後アンケートを実施している。講座等において、高評価を得られており、次年度以降の継続開催にもつながっている。					
課題	活動内容が市民に普及しきれていない可能性があるため、健康無関心層・低関心層の健康行動につながる情報の提供や啓発等が必要である。 ゲートキーパー養成講座に関しては、講座開催数が伸びており、引き続き実施していく必要がある。							
今後の方向性	活動内容の周知方法や、健康情報の発信方法についてさらなる検討が必要である。 歯科疾患健康教育やゲートキーパー養成講座については、近年講座開催依頼が増加しているため、引き続き、講師役やゲートキーパーを養成し、より多くの市民に普及していく。							
17	事業名	更生保護推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	法務省の提唱する非行・犯罪を防止する社会啓発運動で住民がそれぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くための活動を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民大会開催数	回	0	1	1	1	1(R6)
	②	啓発ポスター掲示交通社数	社	0	0	5	5	5(R6)
	③	刑務作業製品の販売日数	日	0	0	2	2	2(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	市民大会、矯正展ともに、コロナ禍前の形式で実施ができた。市民大会においては、令和5年に創立100周年を迎えた浪速少年院の院長を講師としてお招きし、講演会を開催した。（来場者130名） また、茨木市在住のデザイナーにデザインを依頼した啓発ポスターを市内の鉄道駅構内、路線バス車内に掲出した。					
課題	社会を明るくする運動茨木市推進委員会の構成団体のなかでも、運動に対する意識の差が大きく、事業に関わる団体が限られている。犯罪や非行からの立ち直りを地域全体で支える安全・安心な明るい社会の実現のためにも、より多くの団体を巻き込む方法について検討が必要である。							
今後の方向性	より多くの団体を巻き込みながら、更生保護活動の周知や啓発の効果的な方法について図っていく。							

18	事業名	両親教室（パパ＆ママクラス）						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	妊娠中から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦やそのパートナー等が参加する講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施回数	回	3	6	12	12	増やす
	②	受講者人数	人	131	305	457	478	増やす
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	妊娠中から出産や育児に関する情報提供を行うことができた。オンライン型から参加型に戻し、直接的な育児手技の指導・対面交流ができるようにした。平日開催だけでなく、休日開催日を設けた。					
A								
課題	電子申込み開始直後に定員に達し、多い月ではキャンセル待ちが定員相当数となる。							
今後の方向性	実施回数の増加を図る。							
19	事業名	乳幼児療育支援事業(すくすく親子教室)						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	療育を必要とする乳幼児が日常生活における基本的な動作の習得及び集団生活に適応することができるよう、適切かつ効果的な集団的療育指導(児童発達支援事業)、相談を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	すくすく親子教室 延利用者数	人	3444	3595	5137	3942	4000(R6)
	②	親子ひろば 延利用者数	人	232	206	296	256	250(R6)
	③	電話相談 延利用者数	人	147	207	189	163	180(R6)
	④	外部講師学習会、後援会	人	41	51	25	45	40(R6)
	R5年度の取組内容及び成果	評価	前年度に比べるとすくすく親子教室利用者数・親子ひろば・相談件数共に減少しているもののニーズに合わせた対応はできたと評価できる。外部講師による学習会や講演会についても保護者が知りたい情報を提供できた成果であると評価する。					
B								
課題	引き続きこども保健グループと連携をしながら健診フォローの強化に努め、親子への切れ目のない支援をいかに充実したものにしていかが課題である。親子ひろばの開催についてもより充実したものにできるよう検討していきたい。							
今後の方向性	発達に課題のあるこどもの健診後の切れ目のない支援体制について、引き続き保護者が安心して子育てできる体制を整えていく。おにクルに移転したこども保健グループとの連携を密にし、協議検討したことを定期的に見直しをしていく。							
20	事業名	地域でのまちづくり推進事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	都市政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民がまちづくり活動等に参加するきっかけづくりや意識啓発のための事業を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	太田知恵の和開催	回	2	1	2	3	-
	②	まちづくりアドバイザー派遣	回	1	3	11	5	-
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	太田知恵の和では、地域住民が得意なことを活かしたまち歩き、追手門学院大学の学生が得意な縄跳びを中心としたスポーツイベント、学園祭への出店を実施した。地域の方々に気軽に楽しく参加していただくだけでなく、地域愛、多世代交流につながる取組となった。また、まちづくりアドバイザー派遣では住民主体で進める街づくりガイドラインの作成に対してアドバイザーを派遣した。住民が完成したガイドラインの説明会を実施するなど、地域主体のまちづくりをサポートすることができた。					
B								
課題	まちづくりを学ぶだけでなく、まちづくりの実践につながる取組を検討する必要がある。							
今後の方向性	身近な地域課題について考えるよいきっかけを提供できているため、まちづくりの実践や多世代交流につなげることを意識しながら継続して実施する。							

21	事業名	介護保険サービス向上推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	サービス利用者等が介護保険制度を信頼し、安心して適正な介護サービスの提供を受けることができるように、サービスの質の確保及び向上に努める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	介護相談員派遣回数	回	74	40	119	326	350(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	新型コロナが5類になり、ほとんどの施設で訪問ができるようになってきている。					
	B							
課題	介護相談員の高齢化であり、新たな介護相談員のなり手の不足が課題である。							
今後の方向性	介護施設と介護相談員の良好な関係を継続し、介護相談員派遣事業を継続する。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(4)大学等と連携した学習機会の充実
3	取組内容	● 専門的かつ特色ある学習内容を提供するため、大学など高等教育機関と連携した講座・教室の拡充を推進します。

◇ 事業内容

22	事業名	市内大学連携講座の実施						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習に取り組む市民を支援するとともに活動の充実・向上を図るため、生涯学習センターにおいて市内大学連携講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市内大学講座等実施回数	回	5	15	14	26	30(R6)
	②	市内大学講座等実施参加者数	人	1250	1778	282	2802	3000(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	令和5年度は空調改修工事により約3か月間休館したため継続講座開催数は減少したが、新規講座として法学や宇宙科学分野の講座を開催したことにより、実施回数及び参加者数が大幅に増加した。					
	A							
	課題	講座内容が固定化しているため、より充実した講座を開催するために、新規分野の講座の発掘及び調整等が必要である。						
今後の方向性	新規講座の発掘に向けて、関係機関と市民ニーズに対応した講座開催に向けて、調整等を行う。							
23	事業名	大学連携プラットフォーム事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(5)地域に関する学習機会の充実						
	事業内容	茨木の魅力である多数の大学立地を活かし、市内大学や連携協定を締結している各主体で構成される連携プラットフォームを構築、運営し、情報共有や、地域との連携、大学間の連携促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市で後援を行った講演会等の回数	回	2	1	1	2	-
	②	大学間連携の検討会議	回	5	6	3	4	4(R6)
	③	大学共同研究マッチング件数	回	3	3	12	2	8(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	大学と連携した生涯学習の推進のための土壌づくりとして、定期的に大学の地域連携担当課との対話の場を設け、様々な意見交換を実施し、連携の促進を図った。					
	B							
	課題	大学との共同事業や共同研究等のさらなる推進を図る必要がある。						
今後の方向性	大学との連携をさらに深め、地域の課題解決や活性化、市民サービスの向上に向けて、共に新たな価値を創造する取組を推進していく。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(5)地域に関する学習機会の充実
3	取組内容	● 地域の産業、歴史、自然、特色等の学習を通して、地域社会への関心を高め、地域を愛する心を育み、地域社会での生活を向上させるための課題意識を持つことができる学習機会の充実に努めます。

◇ 事業内容

24	事業名	川端康成文学館運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	多くの市民に川端文学に親しんでもらう拠点として、川端康成ゆかりの資料の展示等を行うことにより、教養を高め、市民文化の向上に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	川端康成文学館入場者数	人	4316	4336	9334	6093	8000(R6)
	②	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	529	369	627	622	700(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	川端康成文学館において、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどに子ども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しましたが、ウォーキングイベントとコラボした昨年度に比べて来館者数は大幅に減少しました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「b」評価とします。					
課題	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要です。							
今後の方向性	より多くの世代の方に文学館に足を運んでもらうよう、学生や若年世代をターゲットとした講座や展示などの企画を検討します。							
25	事業名	魅力発見ツアー事業						
	担当課	(部名)	企画財政部			(課名)	まち魅力発信課	
	再掲	-						
	事業内容	市内外の人により茨木市の魅力を発信できるバスツアー等を開催する。市政への関心と理解を深めるため、「魅力発見ツアー」については、その時々話題となっている民間施設やスポットを巡り、「まちの魅力」を知っていただく。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施回数（魅力発見ツアー）	回	-	3	3	2	2(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	地域資源を活かしたツアーにより、自分たちのまちをより深く知ることで、まちへの愛着の醸成を図ることができた。また、令和5年度に開館した「おにクル」でのツアー実施や、ダムパークいばきたの第2期オープンについて参加者に周知することができたため、次なる茨木のまちづくりの推進を実感していただくことができた。					
課題	ツアーに参加していただける枠が多くないためすべての参加希望者を受け入れることができない。							
今後の方向性	参加者が情報発信者となりSNSやクチコミにより、まちの魅力PRを自然と担うなど、様々な主体による情報発信を推進する仕掛けと位置付けており、引き続き、各スポットの魅力を十分に掘り下げることで印象的な体験を提供する。							

26	事業名	富士正晴記念館事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	郷土の作家富士正晴氏に関する資料の収集・整理・保存を行い、冊子の刊行や、整理資料の公開、講演会(年1回)を実施し、文化芸術の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	記念館来館者数	人	2691	3093	3527	4154	4000(R6)
	②	講演会参加者人数	人	-	37	39	28	30(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A 企画展・講演会・子ども向けイベントの開催、および移動図書館ともしび号出動時におけるクイズの実施で、広く富士正晴と記念館の周知を行い、来館者数が増え、より多くの人に富士正晴の業績や魅力を発信することができた。					
課題	郷土の作家富士正晴について知らない市民が多く、認知度が低い。							
今後の方向性	中央図書館で企画展に連動した本の特集をしたり、定期的にSNS等で情報を発信し、広く郷土ゆかりの作家「富士正晴」と「富士正晴記念館」の周知を図る。							
27	事業名	さくらまつり実施事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	元茨木川緑地において、身近な自然に親しむ場や交流・レクリエーションの場を提供することで、豊かな環境を啓発するとともに、市民の連帯感やふるさと意識の充実を高め、まちの活性化を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	さくらまつりの来場者数	人	中止	6394	13380	9400	10000(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 緑地内の改良工事のため、通り抜けによる桜の鑑賞(夜は田中町でライトアップ)のみを実施。					
課題	田中町は例年の会場より遠方であるため、来場者が少なかった。							
今後の方向性	市民団体や民間団体等によるイベント等の開催を促し、さらなる地域の活性化を図る。							
28	事業名	緑化推進事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	都市緑化の推進により、緑豊かで潤いのある街づくりを図るため、公園及び公共性の高い空間に面する民有地等に市と地域住民との協働で花と緑の輪を広げ、また、住宅等への生垣設置や接道部での緑化、壁面緑化の経費を助成し、地域緑化を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	1828	1856	1870	1804	1850(R6)
	②	民有地緑化助成事業の補助件数	件	3	4	7	7	10(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 花と緑の街角づくり推進事業においては、花苗数の調整や活動へのアドバイス等の活動支援を行った。また、民有地緑化助成事業については、事業を活用していただくよう周知に努めた。民有地緑化助成事業は年間の申請件数に変わりはないが、樹木87本と地域緑化が促進された。					
課題	花と緑の街角づくり推進事業については、参加者の高齢化により活動を止める方が増えている。また、民有地緑化助成事業については、高木の成長による道路空間への越境の対策の必要性、事業者利用と壁面緑化については申請件数が0件である。							
今後の方向性	事業周知を進めるとともに、花と緑の街角づくり推進事業については、新しい参加者の獲得や制度をより活用しやすくするための見直し、民有地緑化助成事業は樹木の大きさにより基準を変更するなど検討が必要である。							

29	事業名	市民会館跡地エリア活用事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	共創推進課			
	再掲	-						
	事業内容	市民との対話を基本に、市中心部という立地性や今後の公共施設更新の問題など政策課題を踏まえ、市民会館跡地エリアの活用について検討を進める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民ワークショップの開催	回	14	16	14	7	5(R6)
	②	IBALAB@広場での市民企画等の実施	回	78	70	229	195	102(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					おにクルオープニングにおける市民で構成する実行委員会による市民企画やIBALAB@広場での市民企画等の実施などを通じて、さまざまな形で地域社会における市民活動への参加の機会を創出できており、生涯学習の取組の進捗が順調に進行しています。
課題	市民会館跡地エリアのキーコンセプトである「育てる広場」の推進を図るための市民参加の取組を進める必要があります。							
今後の方向性	引き続き市民ワークショップやIBALAB@広場での企画の実施を続けるとともに、市民の参加が得られるような取り組みを進めるなど、市民参加に機会の創出に努めます。							
30	事業名	北部魅力アップ事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	北部整備推進課			
	再掲	-						
	事業内容	本市北部地域にある緑豊かな自然環境や歴史環境、現在事業推進している安威川ダム、彩都の大規模プロジェクトなどの資源をつなぐとともに、地域課題や地域のあり方も踏まえ、北部地域の魅力向上を図るための検討と取組を地域や関係団体とともに進める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	公園づくりワークショップ等参加者数	人	0	111	148	126	150(R6)
	②	出前講座受講者数	人	17	17	100	178	100(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					安威川ダムや彩都等について、自治会や学校向けに出前講座を実施し、事業の周知を図るとともに、北部地域活性化の拠点の一つとなる「ダムパークいばきた」で活動したい方を対象としたワークショップを開催。課題の共有や活動者として必要な機能の検討のほか、5月には参画者の普段の活動等を集約した「ダムパークいばきたフェスティバル」を実施。これにより生まれたつながりや経験を活かし、個人・団体・企業といった多様な主体から、山とまちをつなぐ仲間として「ダムパークいばきたコミュニティ」が構成された。
課題	「ダムパークいばきたコミュニティ」は構成後間もないため、組織体制の強化と新たな仲間づくりが当面の課題となる。また、北部地域の活性化には、継続して地域や関係団体と意見交換を行うとともに、地域の主体的な取組みの促進につなげる必要がある。							
今後の方向性	引き続き、地域や関係団体と意見交換を行うとともに、より多くの方に北部地域の魅力について知る機会を提供し、関心を喚起するための情報発信を行う。							
31	事業名	大阪ミュージアム関係事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪のまち全体をミュージアムに見立て、魅力的な地域資源を発掘・再発見すること等によりまちの魅力を内外に発信することを目的とし、本市にある魅力的な地域資源を大阪ミュージアム登録物として登録し、登録物を活用した観光推進を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	新規登録物件数	件	2	0	0	0	1(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					市内の登録物等の情報発信を行った。
課題	広域的に周知できる本事業のスキームを有効に活用するため、新たな登録物の登録やPRに積極的に取り組む必要がある。							
今後の方向性	本市の魅力を多く・広くPRできるよう、新たな登録物の登録を検討する。							

32	事業名	観光あるき事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	阪急沿線において、沿線自治体と鉄道事業者が実行委員会を作り、地域の魅力を発信していくことを目的とし、「阪急沿線観光あるき」のPR事業やイベント等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ウォーキングアプリでの本市コースの踏破回数	回	644	698	359	268	300(R6)
	②	ガイドツアー参加者数	人	中止	18	29	29	30(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					阪急沿線観光あるきのウォーキングアプリにおいては、比較的歩きやすい「総持寺・太田まちあるきコース」を設定したが、沿線自治体の中でも平均を下回ってしまい、踏破回数は減少した。 ガイドツアーについては「茨木中心部の史跡を訪ねるコース」を設定し、観光協会(ボランティアガイド)との連携のもと実施した。
課題	実績を踏まえて見直しを行うとともに、実行委員会での広域的な広報等を積極的に行い、参加を促進することが重要である。							
今後の方向性	沿線自治体とも連携し、広域に発信できる効果的なツールでもあるので、本市の魅力を多く・広くPRできるよう、ウォーキングコースや魅力スポットの設定を適宜更新していく。							
33	事業名	茨木フェスティバル事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	市民意識の高揚とみんなの郷土づくりを推進し、市民の連帯感を高めるため、市・商工会議所・観光協会・青年会議所の4者協働で構成する茨木フェスティバル協会によりイベントを開催する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	茨木フェスティバル事業来場者数	千人	中止	中止	105	123	130(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	A					中央公園グラウンドなど、会場のレイアウトも以前と異なるなか、新たな企画にも取り組み、官民協働で開催できた。
課題	フェスティバル協会構成団体や実行委員会と適宜協議し、適切な実施方法を検討する必要がある。							
今後の方向性	おにクルの開館に伴い会場設定や来場者の動線確保を行い、安全性を重視して、効果的なイベントの継続ができるよう、フェスティバル協会において検討を進める。							
34	事業名	リノベのいばらきプロジェクト推進事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	-						
	事業内容	活動人口を増やすための「リノベのいばらき」プロジェクトにおいて、リノベーション、DIYを切り口に、「楽しく」まちづくりを始めるきっかけを提供し、活動人口の増加を図り、まちの持続的発展をめざす。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	活動人口(地域活動等への参加)割合	%	31	26.4	32	-	-
	②	地域活動等に参加したいと考えた人の割合	%	64	56.8	50	-	-
	③	空き物件の改修件数	件	1	0	0	-	-
	④	工房利用者数	人	710	484	689	132	-
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B					これまでの取組の成果と課題を総括し、令和5年8月末をもって社会実験を終了した。 成果は大きく2点あり、『活動人口の創出への寄与(各種団体が実施する様々なまちづくり活動とコラボし、下支えたことにより、各種団体の活動の幅が広がったほか、まちづくりのプレーヤー創出やまちづくりに関わる人たちのつながりに寄与)』及び『サードプレイスとしての場の提供(一般の工房利用は、コロナ禍の影響もあり伸び悩んだものの、中心市街地の便利な場所に立地する利点から、様々なまちづくり活動の拠点としての役割を果たした)』が挙げられる。
課題	活動人口の増加という大きな目的に加えて、当プロジェクトは収益をあげ自走化することも目的としていたが、コロナ禍の影響を踏まえても、公益性と公平性を確保しながらの収益性の両立は困難であった。 この点については、今後、市として共創の取組をさらに推進していくにあたっての検討課題である。							
今後の方向性	工房運営の社会実験は終了したが、“ものづくり”は活動人口の創出・増加との親和性が高いことが確認されたことから、人がまちに関わるきっかけとなるコンテンツとして今後も活用を進める。							

35	事業名	文化財発掘調査事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	文化財保護法の定めにより、市内に存在する埋蔵文化財の発掘調査を開発行為等に先立って行う。また、埋蔵文化財の保存と活用を図り、郷土愛の醸成、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	発掘調査件数	件	168	176	136	130	160(R6)
	②	出土遺物整理事業費	千円	19580	14850	13530	17930	15433(R6)
	③	史跡等維持管理費	千円	2787	4009	632	2184	2072(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	埋蔵文化財については、発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めている。また、R4年度から開始した、市ホームページの地図情報サイト上において遺跡や古墳の範囲を示した「周知の埋蔵文化財包蔵地」の公開は、大きなトラブルもなく市民の利便性向上につなげることができた。					
課題	多くの市民に文化財保護の取組に対する理解を深めてもらえるよう、働きかけていく必要がある。							
今後の方向性	守り伝えられてきた本市の多様な文化財の魅力を引き出す調査・研究を進め、その成果をまとめ、公開する。							
36	事業名	文化財保護事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	指定文化財をはじめ市内に残された文化財に対し、その保存と活用のために必要な措置を講ずることにより、郷土の歴史の正しい理解と郷土愛の醸成を図り、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	「テーマ展」入館者数	人	-	4151	1886	2872	2500(R6)
	②	「郷土史教室」延べ受講者数	人	-	319	178	217	300(R6)
	③	「古文書教室」延べ受講者数	人	40	66	154	187	200(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	銅鐸鑄型発見50周年記念テーマ展の見学者数は昨年度より大幅に増加した。これは関連イベントや図録が好評であったこと等が要因に挙げられる。また、銅鐸の製造工程をクイズ形式で楽しく学ぶことができる映像コンテンツを制作し、大型モニターや遺物のレプリカが設置された空間を展示室の一角に創出した。こどもの利用も増えるなど、幅広い世代に向けた発信機能を強化することができた。					
課題	多くの市民が本市の文化財の魅力に触れることのできる学習機会の確保が求められている。							
今後の方向性	多くの市民が本市の文化財の魅力に触れることのできる機会を提供する。							
37	事業名	ライフスタイルの省エネ化推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	省エネ化を推進するため、イベントや広報媒体を活用して、省エネ活動につながる啓発を行うとともに、市民に省エネナビ（家庭用電力使用量測定機器）の貸出しと、地球温暖化防止を目的に電気・ガス等の使用量を記録し家庭での二酸化炭素排出量を計算する環境家計簿の普及の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	環境家計簿に関する市民講座開催数	回	7	10	7	7	10(R6)
	②	環境家計簿に関する市民講座参加者数	人	59	111	161	143	150(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	市内で各環境保全活動に取り組む市民団体と協働し、市民参加型の事業を実施した。また、環境家計簿を作成し、その普及促進を行った。					
課題	定員に対して参加者が少ない市民講座がある。							
今後の方向性	講座内容や実施時期、周知方法等を見直し及び検討を行っていく。							

38	事業名	生物多様性保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民団体と協働して生きもの調査員養成連続講座を実施する。市内の環境資源（動植物）の状況を、子どもを中心とする市民が観察する際に活用できるリーフレットやガイドブックを作成し配布することで、生物多様性の保全に向けた環境意識の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生きもの調査員養成連続講座参加者数	人	52	95	169	97	100(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	市域に生息する生きものを調査する「環境資源調査」に参加する調査員を養成する生きもの調査員養成連続講座を開講したが、天候不良等のため一部の回が中止となった。 受講生のうち10人が修了後に調査員として活動することを希望した。					
課題	講座修了後も調査員として活動できる受講生が少ない。							
今後の方向性	募集の際の参加条件や講座の内容を再検討し、継続して活動可能な参加者を増やす。							
39	事業名	河川体験型環境教育事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもと保護者が実際に川に入り、水生生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図る。(No.116の一部)						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	参加者数	人	90	40	64	60	100(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	小学生とその保護者を対象に川の生きもの観察会を開催した。魚や水生昆虫等の生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図った。また、特定外来生物に関する啓発を行った。スズメバチの影響により、1回の講座が中止となった。代替講座として、講師による水生生物の捕獲方法及び捕獲した生きもの解説動画を作成し、参加者向けにオンライン配信した。					
課題	従前の開催場所にスズメバチの巣が確認されたため、安全に開催できる場所の検討が必要である。 本講座のみの参加だけに留まらず、他の生物関連の講座に参加してもらうよう働きかけ、工夫が必要である。							
今後の方向性	参加者の安全に配慮した開催場所及び開催方法を検討する。 そのほか市が主催している生物関連のイベントへの参加を促すために、本講座内での周知に努める。							
40	事業名	ヒートアイランド対策事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ヒートアイランド対策や環境意識の高揚のため、市内の学校等においてみどりのカーテンを設置するとともに、市民・事業者の取組に支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民モニター数	人	36	50	46	49	50(R6)
	②	学校・事業者等の取組組織数	施設	65	70	71	69	70(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	モニター説明会をYouTube視聴によるオンデマンド方式で実施することで、用意している苗を全てお渡しすることができた。					
課題	・ヒートアイランド対策について、市民に理解してもらう。 ・モニターの時だけではなく、継続的にみどりのカーテンを取り組んでもらえる市民の育成が必要である。							
今後の方向性	モニターの時だけではなく、継続的にみどりのカーテンを取り組んでもらえる市民の育成に努める。							

41	事業名	小学校区公民館講座等実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	各公民館において、社会教育の場として、地域住民のニーズに対応した文化、スポーツなどの講座等を開催し、住民の主体的な学習活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講座等開設数	講座	227	268	347	346	350(R6)
	②	講座等受講者数	人	3323	3942	6266	7963	8,000(R6)
	③	現代的課題・地域課題に関する講座等	講座	12	26	39	55	60(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	公民館講座についてはアフターコロナにおいても地域活動への影響が続いていることから、参加人数や開催回数の基準緩和、各地域での創意工夫により、学習機会の確保に努めた。また、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組を推進することができた。					
	A							
課題	地域の持続的発展のため、住民参加による地域課題の解決が求められている。							
今後の方向性	民間事業者等のノウハウを生かした講座等についての情報共有を図り、現代的課題・地域課題に関する講座等の開催を推進していく。							
42	事業名	市民参加型森林保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	農林課			
	再掲	-						
	事業内容	市民参加型の里山保全を推進することにより、美しい里山景観の復元や水源涵養能力など森林の持つ多面的機能を発揮させるほか、森林ボランティアを育成し、市民参加型の里山保全を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	森林サポーター養成講座受講者数	人	14	0	25	22	25(R6)
	②							
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	定員25名の申し込みがあり、22名の認定・修了者を輩出し、多くの方が森林整備ボランティア団体に登録された。					
	A							
課題	森林整備ボランティアが活動の拠点としている里山センターの老朽化が著しいため、新たな施設の設置が必要である。							
今後の方向性	森林整備ボランティアの活動を活性化するためには、都市住民が里山に親しめる施設が重要となってくるため、できるだけ早急に新たな施設が設置できるよう努める。							
43	事業名	【再掲】川端康成文学館運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	多くの市民に川端文学に親しんでもらう拠点として、川端康成ゆかりの資料の展示等を行うことにより、教養を高め、市民文化の向上に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	川端康成文学館入場者数	人	4316	4336	9334	6093	8000(R6)
	②	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	529	369	627	622	700(R6)
	③							
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	川端康成文学館において、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどにこども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しましたが、ウォーキングイベントとコラボした昨年度に比べて来館者数は大幅に減少しました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「b」評価とします。					
	B							
課題	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要です。							
今後の方向性	より多くの世代の方に文学館に足を運んでもらうよう、学生や若年世代をターゲットとした講座や展示などの企画を検討します。							

44	事業名	【再掲】大学連携プラットフォーム事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	-						
	事業内容	茨木の魅力である多数の大学立地を活かし、市内大学や連携協定を締結している各主体で構成される連携プラットフォームを構築、運営し、情報共有や、地域との連携、大学間の連携促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市で後援を行った講演会等の回数	回	2	1	1	2	-
	②	大学間連携の検討会議	回	5	6	3	4	4(R6)
	③	大学共同研究マッチング件数	回	3	3	12	2	8(R6)
	④							
	R5年度の取組内容及び成果	評価	B 大学と連携した生涯学習の推進のための土壌づくりとして、定期的に大学の地域連携担当課との対話の場を設け、様々な意見交換を実施し、連携の促進を図った。					
課題	大学との共同事業や共同研究等のさらなる推進を図る必要がある。							
今後の方向性	大学との連携をさらに深め、地域の課題解決や活性化、市民サービスの向上に向けて、共に新たな価値を創造する取組を推進していく。							